

Privia

PX-5S

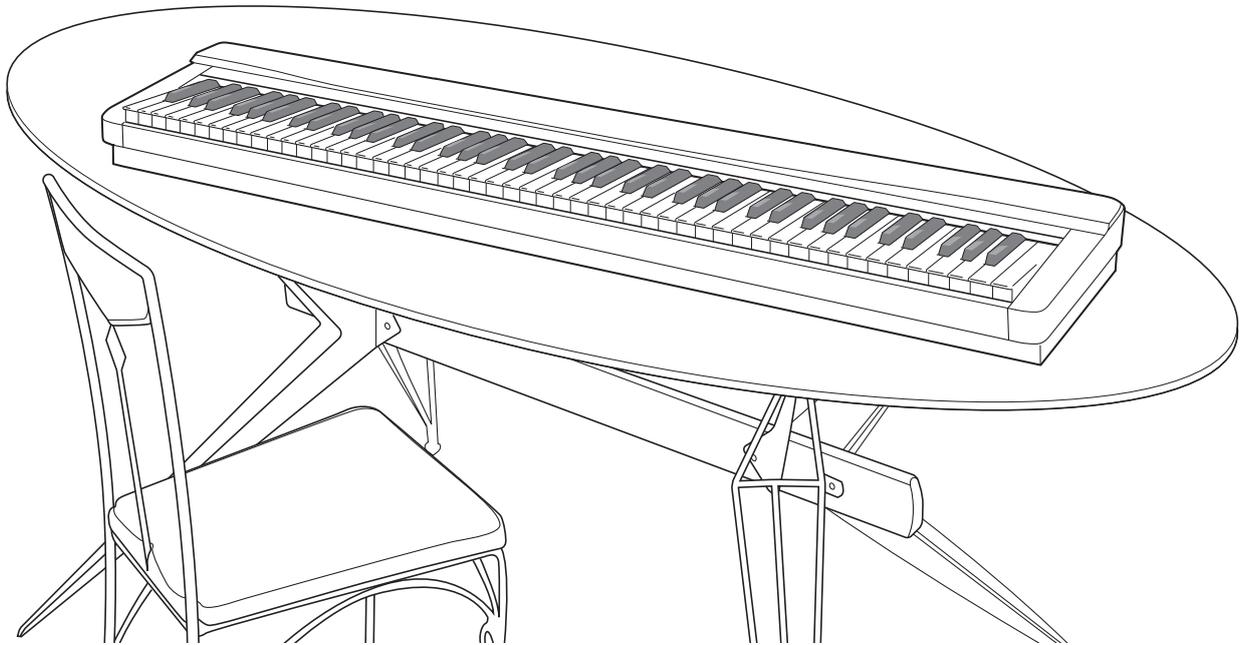
取扱説明書 基本編（保証書別添）

この取扱説明書は、お読みになったあとも、保証書とともに、大切に保管してください。

「安全上のご注意」

ご使用前に、添付別紙「安全上のご注意」をお読みの上、正しくお使いください。

- 別冊の「取扱説明書(応用編)」は、下記のホームページに掲載されています。
<http://casio.jp/support/emi/>



■ JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

CEマーキングは、ヨーロッパ地域の基準適合マークです。



このマークはEU諸国における
リサイクル規制のマークです。



Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan
Responsible within the European Union:
CASIO EUROPE GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany

本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

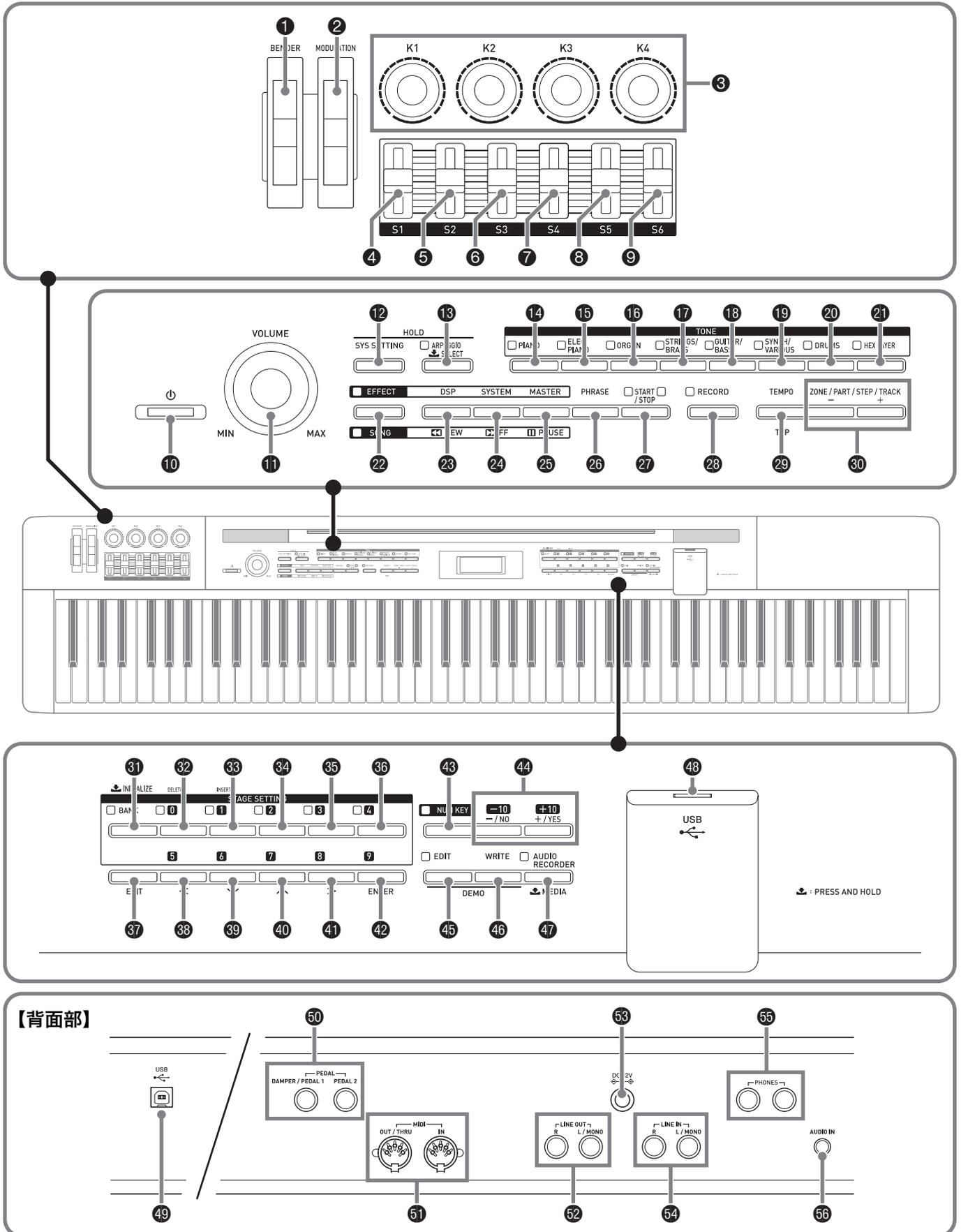
目次

全体ガイド	2
各部の名称.....	2
設定内容の保存と、操作のロックについて.....	4
工場出荷時の状態に戻すには.....	4
別冊取扱説明書(応用編)について.....	4
ご使用上の注意.....	4
電源について	5
ACアダプターの使い方.....	5
乾電池の使い方.....	6
電源の入れ方、切り方.....	6
接続について	7
ヘッドホンを接続するには.....	7
ペダルを接続するには.....	7
オーディオ機器やアンプと接続する.....	8
付属品・別売品について.....	8
共通の操作	9
番号や数値を変更する.....	9
文字を入力する.....	10
データを保存する.....	10
再生を開始する/停止する.....	11
記録(録音)を開始する/停止する.....	11
編集(エディット)機能を使う.....	12
番号の横に表示されているマークについて.....	12
いろいろな音色で弾いてみる	13
音色を選んで弾いてみる.....	13
音色を編集する.....	13
ベンダーホイールで音の高さを変える.....	14
モジュレーションホイール、 ノブ、スライダーで音に変化を付ける.....	14
デモ曲を聴く	15
アルペジオを自動的に鳴らす	16
アルペジオ機能を使う.....	16
フレーズを再生・記録する	17
フレーズを新規に記録する.....	17
フレーズを聴いてみる.....	18
フレーズに演奏を重ねて記録する (オーバーダビング).....	19
フレーズを保存する.....	19
ソングを作る(ソングシーケンサー).....	20

演奏を録音する (オーディオレコーダー)	21
USBメモリーへの録音.....	21
さらに高度な演奏にチャレンジする (ステージセッティング)	23
概要.....	23
ステージセッティングの呼び出し.....	23
本機をさらに使いこなすには	24
システムセッティングについて.....	24
データを消去する.....	25
USBメモリーを使用する	26
一般のオーディオデータ(WAVファイル)を USBメモリーに保存するには.....	27
USBメモリーを本機に装着する/取り外す.....	27
USBメモリーをフォーマットする.....	28
本機のデータをUSBメモリーに保存する.....	28
USBメモリーから本機へデータを読み込む.....	29
USBメモリーのデータを消去する.....	29
USBメモリーのデータの ファイル名を変更する.....	29
USBメモリーに保存した オーディオデータを再生するには.....	30
USBメモリーに保存した MIDIファイルを再生するには.....	30
エラーメッセージ一覧.....	31
パソコンとの接続について	32
パソコンと接続する.....	32
本機のデータをパソコンに保存する/ 本機のデータをパソコンで編集する.....	33
資料	34
困ったときは.....	34
製品仕様.....	35
保証・アフターサービスについて.....	36

全体ガイド

各部の名称



● 本書では、ボタンやつまみの操作を、これらの番号と名前で説明します。

● ☞マークの数字は参照ページです。

- ① ^{ベンダー} BENDERホイール ☞14
- ② ^{モジュレーション} MODULATIONホイール ☞14
- ③ K1~K4ノブ ☞14
- ④ S1スライダー ☞14
- ⑤ S2スライダー ☞14
- ⑥ S3スライダー ☞14
- ⑦ S4スライダー ☞14
- ⑧ S5スライダー ☞14
- ⑨ S6スライダー ☞14
- ⑩ ⏻ (電源) ボタン ☞4, 6
- ⑪ ^{音量} VOLUMEつまみ ☞6
- ⑫ ^{システムセッティング} SYS SETTINGボタン ☞4, 16, 17, 24, 25
- ⑬ ^{アルペジオ} ARPEGGIOボタン ☞16
- ⑭ ^{ピアノ} PIANOボタン ☞9, 13
- ⑮ ^{エレクトリックピアノ} ELEC PIANOボタン ☞9, 13
- ⑯ ^{オルガン} ORGANボタン ☞9, 13
- ⑰ ^{ストリングス/ブラス} STRINGS/BRASSボタン ☞9, 13
- ⑱ ^{ギター/ベース} GUITAR/BASSボタン ☞9, 13
- ⑲ ^{シンセ/バリアス} SYNTH/VARIOUSボタン ☞9, 13
- ⑳ ^{ドラムス} DRUMSボタン ☞9, 13
- ㉑ ^{ヘクスレイヤー} HEX LAYERボタン ☞9, 13
- ㉒ ^{エフェクト} EFFECT, ^{ソング} SONGボタン ☞6, 11, 20, 20, 22
- ㉓ ^{ディーエスピー} DSP, ^{早戻し} REWボタン ☞20, 22, 30
- ㉔ ^{システム} SYSTEM, ^{早送り} FFボタン ☞20, 22, 30
- ㉕ ^{マスター} MASTER, ^{一時停止} PAUSEボタン ☞20, 22, 30
- ㉖ ^{フレーズ} PHRASEボタン ☞11, 17, 18, 19
- ㉗ ^{スタート/ストップ} START/STOPボタン ☞11, 15, 22
- ㉘ ^{レコード} RECORDボタン ☞11, 17, 19, 22
- ㉙ ^{テンポ} TEMPO, ^{タップ} TAPボタン ☞18, 19
- ㉚ ^{ゾーン/パート/ステップ/トラック} ZONE/PART/STEP/TRACK, ^{-/+} ボタン ☞13
- 液晶画面
- ① ^{バンク} BANK, ^{イニシャライズ} INITIALIZEボタン ☞10, 19, 23
- ② ^{デリート} 0, DELETEボタン ☞9, 10, 20, 23
- ③ ^{インサート} 1, INSERTボタン ☞9, 10, 20, 23
- ④ 2ボタン ☞9, 10, 23
- ⑤ 3ボタン ☞9, 10, 23
- ⑥ 4ボタン ☞4, 9, 10, 23
- ⑦ ^{イグジット} EXITボタン ☞4, 10, 12, 18, 25, 28, 29
- ⑧ 5, < ボタン ☞4, 9, 10, 12, 20, 23, 24, 25
- ⑨ 6, ∨ ボタン
☞4, 9, 10, 12, 17, 18, 20, 23, 24, 25, 28, 29
- ⑩ 7, ^ ボタン
☞4, 9, 10, 12, 17, 18, 20, 23, 24, 25, 28, 29
- ⑪ 8, > ボタン ☞4, 9, 10, 12, 20, 23, 24, 25
- ⑫ ^{エンター} 9, ENTERボタン
☞4, 9, 10, 12, 20, 22, 23, 24, 25, 28, 29, 30
- ⑬ ^{数値入力モード} NUM KEYボタン ☞4, 9
- ⑭ ^{いいえ} -, /NO, ^{はい} + /YESボタン
☞9, 10, 15, 17, 18, 20, 22, 25, 28, 29, 30
- ⑮ ^{エディット} EDITボタン ☞12, 15, 18, 20
- ⑯ ^{ライト} WRITEボタン ☞10, 15
- ⑰ ^{オーディオレコーダー} AUDIO RECORDER, ^{メディア} MEDIAボタン
☞11, 21, 22, 28, 29, 30
- ⑱ ^{ユーエスピー} USB メモリー端子 ☞27, 28, 29, 30
- ㉑ ^{ユーエスピー} USB 端子 ☞32
- ㉒ ^{ダンパー/ペダル1} DAMPER/PEDAL1, ^{ペダル2} PEDAL2端子 ☞7
- ㉓ ^{メディアアウト/スルー} MIDI OUT/THRU, ^{イン} IN端子
- ㉔ ^{ラインアウト} LINE OUT R, L/MONO端子 ☞8
- ㉕ 電源端子 (DC 12V) ☞5
- ㉖ ^{ラインイン} LINE IN R, L/MONO端子 ☞8
- ㉗ ^{ヘッドホン} PHONES端子 ☞7
- ㉘ ^{オーディオ入力} AUDIO IN端子 ☞8

設定内容の保存と、 操作のロックについて

本機では、各種設定の内容を電源を切った後も保存したり、ボタンをロックして誤操作を防いだりすることができます。詳しくは24ページ「システムセッティングについて」の、「設定内容の保存」と「操作のロック」をご参照ください。

工場出荷時の状態に戻すには

本機のデータや設定などシステムの内容をすべて初期化して、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。

以下の2つの方法があります。

■方法1

1. ボタン⑩(⏻)を押し続けて、本機の電源を切ります。
 - 詳細は、6ページ「電源の入れ方、切り方」をご参照ください。
2. ボタン⑳(4)とボタン㉓(NUM KEY)を同時に押しながら、ボタン⑩(⏻)を押します。液晶表示部分に“INITIALIZING”表示が現れるまで、ボタン⑳(4)とボタン㉓(NUM KEY)を押し続けます。初期化が終了すると、通常の画面に切り替わります。

■方法2

1. ボタン㉒(SYS SETTING)を押します。
2. ボタン㉔(✓)と㉕(∧)を押して、“Initialize”を選びます。
3. ボタン㉖(<)、㉗(✓)、㉘(∧)、㉙(>)を押して、“Initialize All”を選びます。
4. ボタン㉚(ENTER)を押します。初期化を実行してよいかを確認する画面(表示“SURE?”)になります。
 - 初期化を中止したいときは、ボタン㉛(NO)または㉜(EXIT)を押します。
5. ボタン㉝(YES)を押します。画面に“Please Wait”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。初期化が終了すると、画面に“Complete”(完了)と表示されます。

別冊取扱説明書（応用編）について

別冊の「取扱説明書(応用編)」は、下記のホームページに掲載されています。

<http://casio.jp/support/emi/>

ご使用上の注意

「安全上のご注意」と併せてお読みください。

■設置上のご注意

本機を次のような場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
- 極端に温度の低い場所。
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所(これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります)。

■本機のお手入れについて

- お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
- 鍵盤などのお手入れは柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

■付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

■本書について

- 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不明な点や誤りなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

電源について

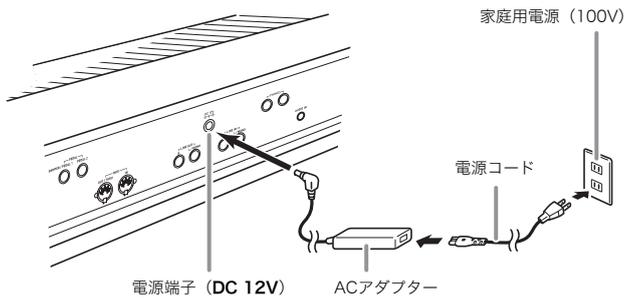
本機は、電源として家庭用電源を使用します。
ご使用後は、必ず電源を切ってください。

ACアダプターの使い方

本機付属のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）を使用してください。付属以外のACアダプターを使用すると故障の原因になることがあります。

本機指定ACアダプターの型式：AD-A12150LW

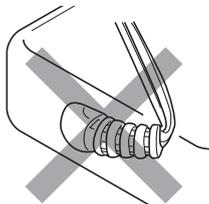
- ACアダプターの接続には、下図のように付属の電源コードをご使用ください。



コード部の断線防止のため、次の点にご注意ください。

■ 使用時

- コードを強く引っ張らない
- コードを繰り返し引っ張らない
- コードの根元部分を折り曲げない

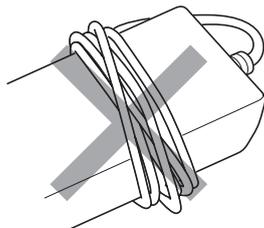


■ 移動時

- 本体を移動させる場合は、必ずACアダプター本体をコンセントから外す

■ 保管時

- コードは図のようにACアダプター本体に巻き付けず、束ねてまとめる



重要!

- 本機付属のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）は、本機にのみご使用ください。他の機器への接続は絶対に行わないでください。故障の原因となります。
- ACアダプター本体を抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。
- ACアダプターは長時間ご使用になりますと、若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 付属の電源コードは、本製品以外の電気機器には使用しないでください。

■ 付属のACアダプターについて

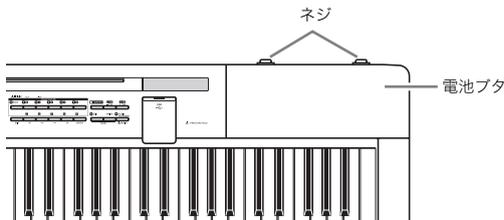
- 本ACアダプターは、使用する機器の近くにあるコンセントに差し込んで使用してください。不具合が生じた時には、コンセントから直ちに引き外せるようにしてください。
- 本ACアダプターは、屋内専用です。水滴のかかる場所には置かないでください。また、水の入った花瓶などを本ACアダプターの上にのせないでください。
- 本ACアダプターは、湿気のないところで保管してください。
- 本ACアダプターは、広々とした換気のよいところでお使いください。
- 本ACアダプターを、新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどで覆わないようにしてください。
- 使用する機器を長い間使用しない時には、本ACアダプターをコンセントから外してください。
- 本ACアダプターは、修理することができません。
- 本ACアダプターの使用環境：温度0～40℃
湿度10%～90%RH
- 出力形式：◇—G—◇

乾電池の使い方

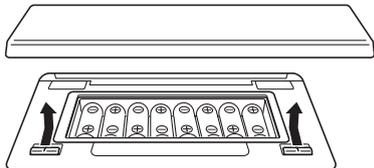
単3形乾電池、8本をご使用ください。

- アルカリ乾電池をお使いください。
オキシライド乾電池などのニッケル系一次電池は、絶対に使用しないでください。

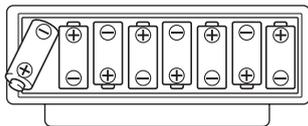
- 本機の背面部右側にある、電池ボタン(左右2箇所)を留めているネジを緩めます。
 - ネジは本機から外れ落ちないようにしています。



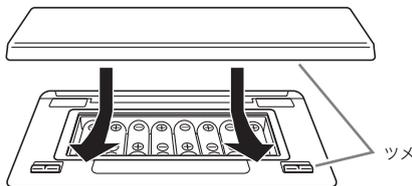
- 電池ボタンを奥にスライドさせて、フタを外します。



- 市販の単3形乾電池、8本を電池ケースに入れます。
 - イラストに合わせて⊕⊖の向きを間違えないように入れてください。



- 手順2と逆の要領で、電池ボタンを手前にスライドさせて、フタを閉めます。
 - 電池ボタン側と本体側の各ツメが、かみ合うようになっています。



- 手順1で緩めたネジ(左右2箇所)を締めます。

■ 乾電池交換時期のお知らせ表示

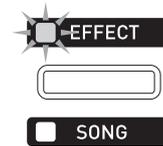
乾電池の持続時間は下記のとおりです。

約3時間※

(アルカリ乾電池使用時、当社別売品ヘッドホンCP-16使用時)

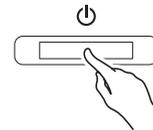
※ 大きめの音量や極端な低温下、あるいは演奏のしかたによっては、これより短くなる場合があります。

乾電池が消耗してくるとボタン⑫ (EFFECT) のランプが点滅しますので、すみやかに新しい乾電池と交換してください。



電源の入れ方、切り方

- ボタン⑩ (⏻) (本機の電源をコントロールするボタン) を押して、本機の電源を入れます。



- ⑪ (VOLUME) つまみを使って、音量を調節します。

- 本機の電源を切るには、ボタン⑩ (⏻) を液晶画面が消灯するまで押し続けます。

📌 メモ

- ボタン⑩ (⏻) で電源を切ったあとも、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。

オートパワーオフ機能

本機を何も操作せずに一定時間放置すると、無駄な電力消費を防ぐため自動的に電源が切れます。電源が切れるまでの時間は、乾電池使用時で約6分、ACアダプター使用時で約4時間です。

- オートパワーオフ機能が作動しないようにするには、24ページ「システムセッティングについて」の「Auto Power Off」をオフにしてください。

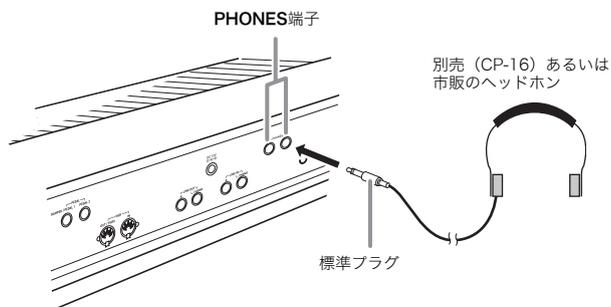
接続について

ヘッドホンに接続するには

重要!

- 接続の際は、本機の**VOLUME**つまみを絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。

【背面部】



別売 (CP-16) あるいは市販のヘッドホン**PHONES**端子に接続します。耳の保護のために音量を上げすぎないようにご注意ください。

メモ

- ヘッドホンのプラグは**PHONES**端子に根元までしっかり差し込んでください。プラグが根元まで挿入されていないと、ヘッドホンの片側からしか音が出ない場合があります。
- ヘッドホンのプラグの形状が端子にあわない場合は、市販の変換プラグをご使用ください。

ペダルに接続するには

本機には2つのペダル端子があります。ペダルにはさまざまな機能を割り当てることができます。

- 工場出荷時、**DAMPER/PEDAL1**にはダンパーペダル※の機能が割り当てられています。

※ 演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤で弾いた音の余韻が長くなります。

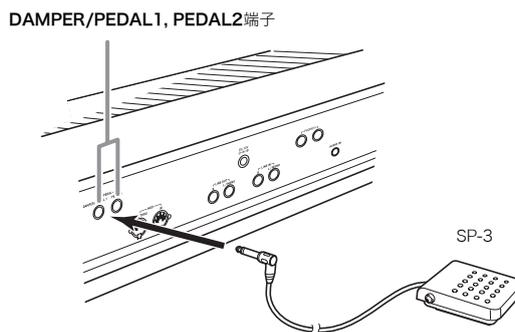
ピアノ音色を選んでいる場合は、実際のグランドピアノでダンパーペダルを使っているときのような共鳴効果 (ダンパーレゾナンス) もかけられます。

- 機能の割り当てについては、別冊「応用編」をご参照ください。

DAMPER/PEDAL1, PEDAL2端子について

ペダル (SP-3) を目的に応じて、**DAMPER/PEDAL1**、**PEDAL2**端子の**DAMPER/PEDAL1**または**PEDAL2**に接続します。両方の端子を同時に使用したい場合は、別売品のペダルをご利用ください。

【背面部】

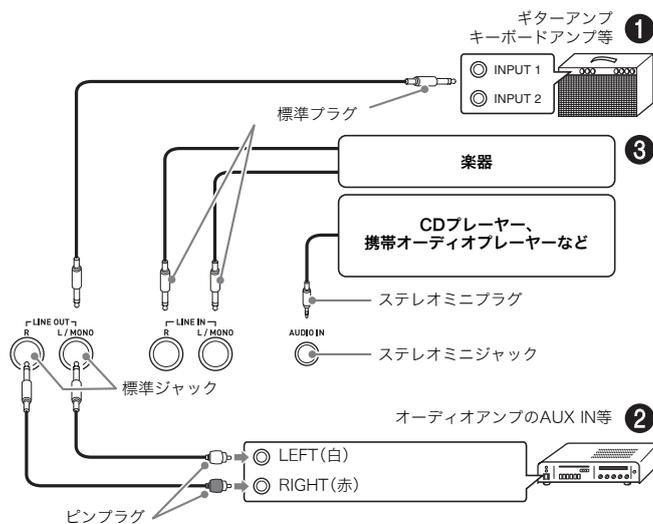


オーディオ機器やアンプと接続する

本機の音は、**LINE OUT R**(右チャンネル出力)と**LINE OUT L/MONO**(左チャンネル出力)端子をキーボードアンプ等と接続して、スピーカーから出力します。LINE OUTからの出力音量は、本機の**VOLUME**つまみで調節可能です。

重要!

- 接続の際は、本機の**VOLUME**つまみを(接続する機器側にも音量調節があればそちらも)絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。
- 接続に際しては、接続機器の取扱説明書も合わせてお読みください。



音を楽器用アンプに出力するには(図①)

本機を楽器用アンプ(モノラル)1台に接続する場合は、市販の接続コードで**LINE OUT L/MONO**とアンプを図①のように接続してください。**LINE OUT L/MONO**だけにコードを接続すると、左右両チャンネルの音がこの端子から混合して出力されます。

音をオーディオ機器に出力するには(図②)

市販の接続コードで図②のように接続してください。通常はオーディオ機器のインプットセレクターを、接続した端子(AUX IN等)に切り替えます。

オーディオ機器からの音を入力するには(図③)

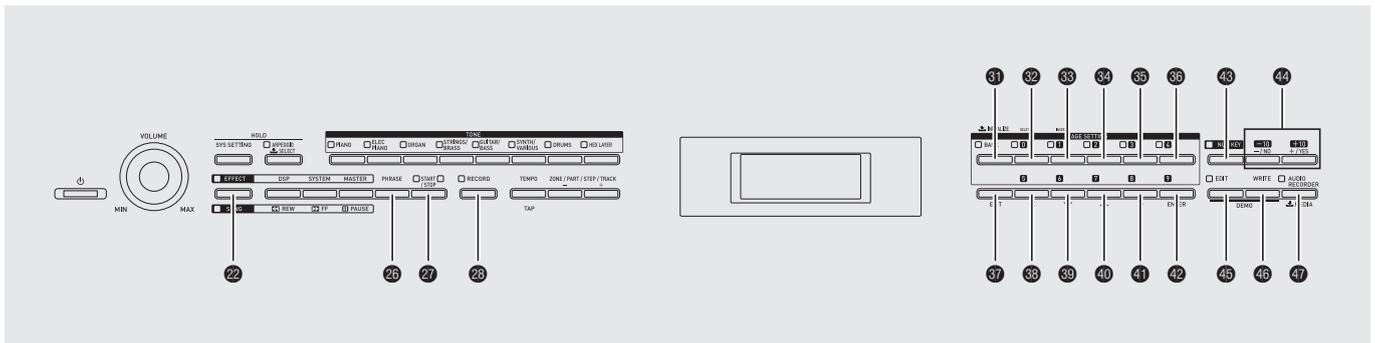
本機の**AUDIO IN**端子とオーディオ機器を図③のように接続します。**LINE IN R**および**LINE IN/MONO**端子にも接続できます。接続には、相手の機器の出力端子に応じた、市販の接続コードをご利用ください。**LINE IN L/MONO**だけにコードを接続した場合は、**LINE IN L/MONO**からの入力が入力が**LINE OUT R**と**LINE OUT L/MONO**の両方から出力されます。

付属品・別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

- 付属品の一覧と、別売品のご案内については36ページをご参照ください。
- 別売品については、店頭の商品カタログでより詳しい情報をご覧いただけます。
<http://casio.jp/emi/catalogue/>

共通の操作



本機の機能で共通している操作を、まとめて紹介します。

番号や数値を変更する

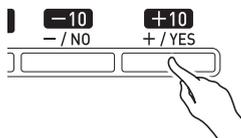
この操作は、番号を選んだり、数値を変更するときに使います。

例：音色の番号の場合

ボタン⑭～㉑(音色グループ)を押してグループを選んだあと、下記の各方法で音色の番号を変更できます。(詳細は、13ページ「いろいろな音色で弾いてみる」をご参照ください。)

1つつ進めるには

1. ボタン④(−, +)を押します。

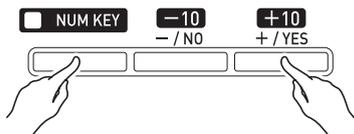


早送りするには

1. ボタン④(−, +)を押し続けます。

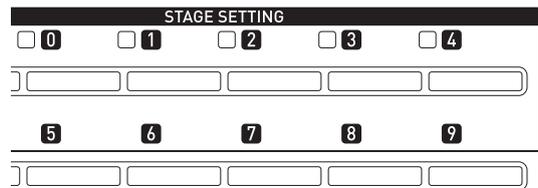
10ずつ進めるには

1. ボタン④③(NUM KEY)を押しながら、ボタン④(−, +)を押します。



テンキーで入力するには

1. ボタン④③(NUM KEY)を押します。
ボタン④③(NUM KEY)のランプが点灯して、数値入力モードに入ったことを表します。
2. ボタン③②～③⑤(0～4)、ボタン③⑥～④②(5～9)を押して、数値を入力します。



初期値に戻すには

初期値は、パラメーターにより異なります。

1. ボタン④④(−, +)を両方一緒に押します。

メモ

- ノブを使って文字や数値を入力することもできます。詳細は、応用編をご参照ください。

文字を入力する

この操作は、名称を入力したり、変更するとき使います。

例：新規にフレーズを作って、データを保存する場合（詳細は、17ページ「フレーズを再生・記録する」をご参照ください。）

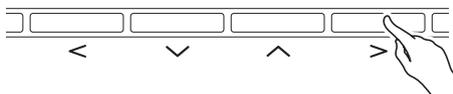
新規に作ったフレーズを本機に保存する場合、保存のメニュー（10ページ「データを保存する」参照）に入ってから、下記の各方法で文字を入力できます。

- 文字は下記リストの中から選びます。

!	"	#	\$	%	&	'	()	
*	+	,	-	.	/	0	1	2	3
4	5	6	7	8	9	:	;	<	=
>	?	@	A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[
\]	^	_	`	a	b	c	d	e
f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
p	q	r	s	t	u	v	w	x	y
z	{		}	~					

- USBメモリーに使用できる文字は、29ページ「USBメモリーのデータのファイル名を変更する」をご参照ください。

- ボタン③⑧(<)、③⑨(∨)、④⑩(∧)、④⑪(>)を押して、カーソルを入力する位置まで移動します。



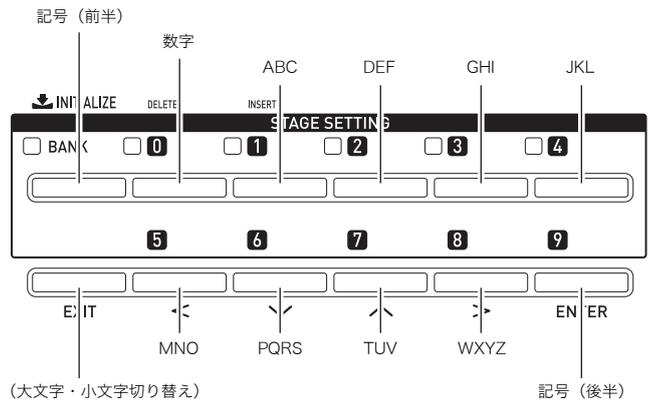
- 以下の方法で、文字を入力します。

- 方法1

9ページ「番号や数値を変更する」と同様に、ボタン④④(−, +)を使って、文字を切り替えます。この方法の場合、ボタン④④(−, +)を両方一緒に押すと、記号→数字→大文字→小文字(それぞれの最初の文字)へスキップします。

- 方法2

まず、ボタン④③(NUM KEY)を押して、ボタン④③(NUM KEY)のランプを点灯させます。次に、ボタン④①~④⑫の12個のボタンで下図のように文字を分担し、ボタンを押すごとに文字が切り替わります。文字の入力が完了したら、ボタン④③(NUM KEY)を押して、ボタン④③(NUM KEY)のランプを消灯させます。



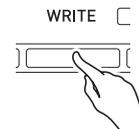
メモ

- ノブを使って文字や数値を入力することもできます。詳細は、応用編をご参照ください。

データを保存する

この操作は、編集や記録したデータを本機メモリーに保存するとき使います。

- ボタン④⑥(WRITE)を押します。



- 番号やデータ名が変更できる場合、10ページ「文字を入力する」の方法で入力します。

- 番号をテンキーで入力することもできます。操作方法は、9ページ「共通の操作」の「テンキーで入力するには」をご参照ください。
- 番号を指定する場合、番号の位置へ移動します。
- 名前を指定する場合、名前の先頭の位置へ移動します。

3. ボタン④(ENTER)を押します。
保存を確認する画面(表示“SURE?”)になります。



- 保存を中止したいときは、ボタン④(NO)またはボタン⑤(EXIT)を押します。

4. ボタン④(YES)を押します。

画面に“Please Wait”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。保存が終了すると、画面に“Complete”(完了)と表示されます。

- 指定した保存先にすでにデータがある(または同じ名前のファイルがある)場合、上書きしてよいかを確認する画面(表示“Replace?”)になります。上書きして保存するときはボタン④(YES)を、キャンセルするときは(NO)を押してください。

再生を開始する/停止する

この操作は、データの再生ができる機能のときに使います。

1. 使いたい機能のボタンを何回か押して、ボタンのランプを点灯させます。

ボタンのランプの点灯により、各機能が再生の待機状態であることを表します。

- ボタン②(SONG): ソングシーケンサーの再生(20ページ)
- ボタン③(PHRASE): フレーズシーケンサーの再生(17ページ)
- ボタン④(AUDIO RECORDER): オーディオレコーダーの再生(21ページ)

2. ボタン⑦(START/STOP)を押して再生を開始します。



3. ボタン⑦(START/STOP)を押して再生を停止します。

記録(録音)を開始する/停止する

この操作は、データの記録(録音)ができるフレーズシーケンサーおよびオーディオレコーダー機能のときに使います。

1. 上記「再生を開始する/停止する」の手順1の操作で、使いたい機能のボタンを何回か押して、ボタンのランプを点滅させます。

記録(録音)の待機状態になり、ボタン⑨(RECORD)のボタンも点滅します。



2. 以下のいずれかを起点に、記録が開始されます。

- ボタン⑨(RECORD)を押す
- ペダル操作
- ノブ操作
- スライダー操作
- ホイール操作
- 鍵盤で演奏を始める

ボタン⑨(RECORD)のランプが点灯に変わります。使っている機能のボタンは点滅のままです。

3. ボタン⑨(RECORD)を押して、記録を停止します。

ボタン⑨(RECORD)のランプが消灯します。使っている機能は再生の待機状態に入り、その機能のボタンのランプが点灯に変わります。(11ページ「再生を開始する/停止する」の手順1を実行後の状態と同じです。)

 **メモ**

- 下記は、ソングシーケンサー、フレーズシーケンサー、およびオーディオレコーダーの各機能で共通している、ボタンのランプの意味です。
 - A) 各機能のボタン(42 (SONG)、43 (PHRASE)、47 (AUDIO RECORDER))のランプ
 - 消灯している: その機能が停止しています。
 - 点滅している: その機能が記録(録音)の待機中、または記録(録音)中です。
 - 点灯している: その機能が再生の待機中、または再生中です。
 - B) ボタン48 (RECORD)のランプ
 - 消灯している: すべての機能の記録(録音)が停止しています。
 - 点滅している: 「ランプが点滅している機能」の記録(録音)待機中です。
 - 点灯している: 「ランプが点滅している機能」が記録(録音)中です。
- 下記は、ソングシーケンサー、フレーズシーケンサー、およびオーディオレコーダーの各機能で共通している、ボタンを押したときの動作の仕様です。
 - C) ボタン47 (START/STOP)を押したときの動作
 - 再生していないとき: 「ランプが点灯している機能」の再生を開始します。
 - 再生しているとき: 再生を停止します。
 - D) ボタン48 (RECORD)を押した時の動作(記録可能な機能のみ)
 - (RECORD)のランプが点滅している(記録待機中)とき: 「ランプが点滅している機能」の記録を開始します。
 - (RECORD)のランプが点灯している(記録中)とき: 記録(録音)を停止します。並行して再生中の機能があれば、同時に停止します。

編集 (エディット) 機能を使う

この操作は、音色やデータの編集(エディット)ができる機能のときに使います。各編集項目のパラメーターの値を変更します。

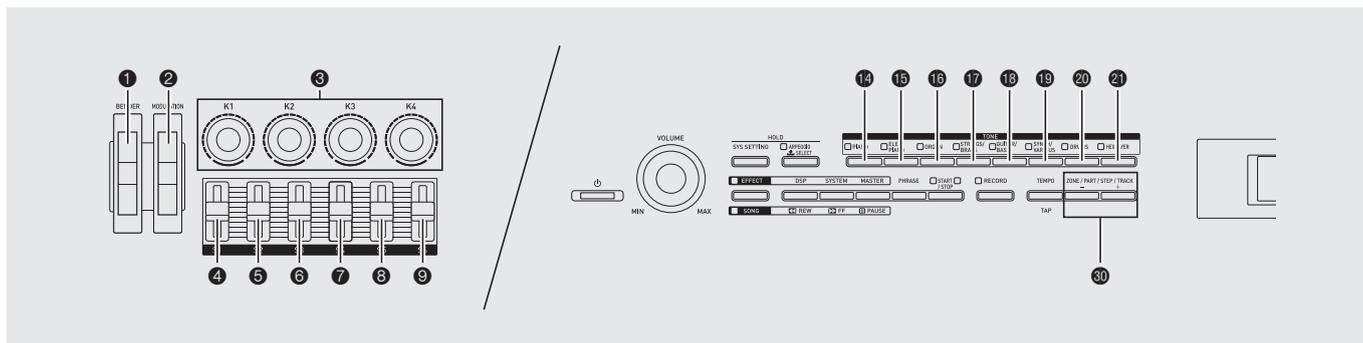
1. ボタン45 (EDIT)を押します。
編集画面が表示されます。
2. ボタン38 (<)、39 (∨)、40 (∧)、41 (>)を押して、編集項目を選びます。
 - “>ENT”が表示されている場合、さらにその中に編集項目があることを示しています。ボタン42 (ENTER)を押して、中のページに入ります。
3. パラメーターの値を変更します。
 - 操作方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。
4. 編集が終わったら、ボタン47 (EXIT)を押します。
 - 編集に入る前の画面に戻るまで、ボタン47 (EXIT)を何回か押します。

番号の横に表示されているマークについて

データの記録や編集をしたあと番号の横に付くマークは、以下の意味を表しています。

- ! : 未保存のデータ
 - * : 保存済のデータ
- 未保存のデータ(!)は、編集や記録を終了して別の番号を選び直すと破棄されてしまいます。保存の操作方法は、10ページ「データを保存する」を参照してください。

いろいろな音色で弾いてみる



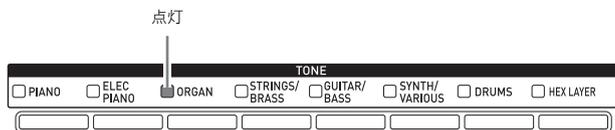
音色を選んで弾いてみる

本機には720種類(プリセット370種類、ユーザー350種類)の音色(トーン)があります。音色は全部で8つのグループに分かれています。

- 詳細は別冊「応用編」の「音色リスト」をご参照ください。
- 音色の特徴を生かしたデモンストレーション用の自動演奏曲をお聴きになれます。15ページ「デモ曲を聴く」をご参照ください。

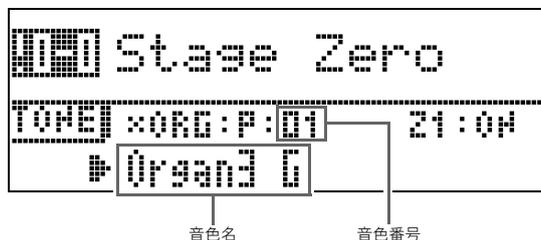
1. 「音色リスト」で、鳴らしたい音色のグループと番号を確認します。
2. ボタン⑭～㉑(音色グループ)を押して、グループを選びます。

例: “ORGAN”グループを選んだ場合



3. 音色を選びます。
 - 操作の方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。

例: “01 Organ3 G”を選んだ場合



メモ

ゾーンについて

- 各ゾーン*の音色を指定するには、ボタン⑳(ZONE, -/+)を押してゾーン番号を選んでから、上記の操作1～3で音色を変更します。
 - ボタン⑳(ZONE, -/+)を同時に押すことに、現在選んでいるゾーンの音を消す(オフ)と音を出す(オン)を切り替えることができます。
- * ゾーンについての詳しい説明は、別冊「応用編」をご参照ください。

音色を編集する

音色を編集することができます。DSPやシステムエフェクトも、編集のメニューから設定します。

1. 編集したい音色を選びます。
 - 操作方法は、13ページ「音色を選んで弾いてみる」をご参照ください。
2. 編集します。
 - 操作方法は、12ページ「共通の操作」の「編集(エディット)機能を使う」をご参照ください。



- 選んだ音色によって、編集の項目が異なります。
- 編集画面の詳細やパラメーターについては、別冊「応用編」をご参照ください。

ベンダーホイールで音の高さを変える

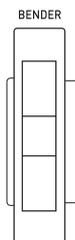
演奏中に音の高さを滑らかに上下することができます。サックスやエレキギターのチョーキング奏法のような効果を出すことができます。

演奏方法

1. 右手で鍵盤を押しながら、左手でホイール①(BENDER)を上下に動かします。

ホイールを動かした量に応じて、音の高さが変わります。

- 本機の電源を入れるときには、ホイールを動かさないようにしてください。



メモ

- ホイールを上限や下限まで動かしたときの、音の高さの変化量を変えることができます。詳細は、別冊「応用編」をご参照ください。

モジュレーションホイール、ノブ、スライダーで音に変化を付ける

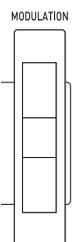
演奏中に音に変化を付けることができます。音色によって適した効果がプリセットされています。

演奏方法

1. 右手で鍵盤を押しながら、左手でホイール②(MODULATION)、ノブ③(K1~K4)、またはスライダー④~⑨(S1~S6)を動かします。

動かした量に応じて、効果の大きさが変わります。

- 本機の電源を入れるときには、ホイール、ノブ、スライダーを動かさないようにしてください。

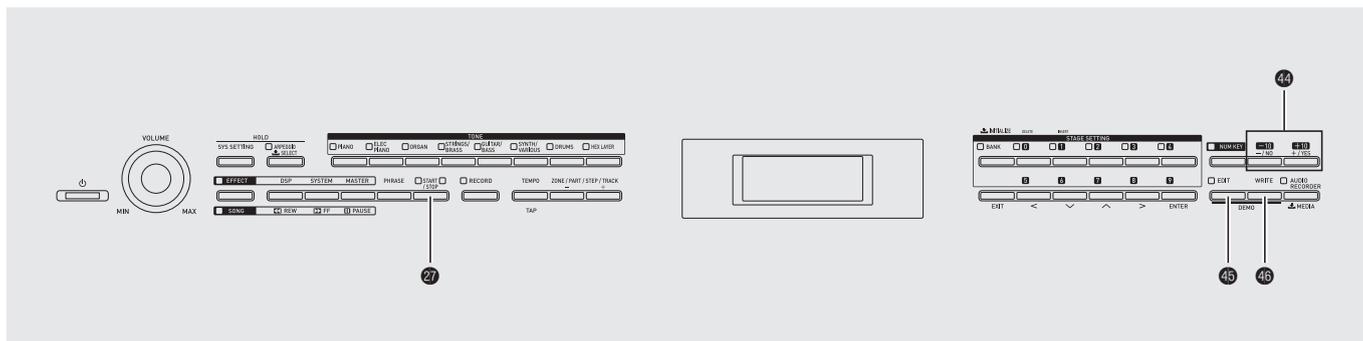


メモ

- モジュレーションホイール、ノブ、スライダーを動かしたときの効果や、割り当てる機能を変更できます。詳細は、別冊「応用編」をご参照ください。

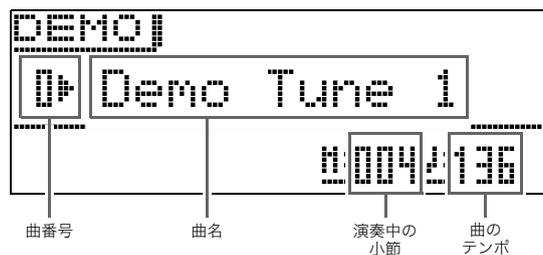
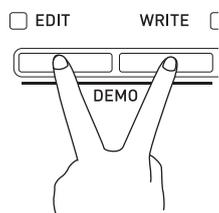
- 「いろいろな音色で弾いてみる」に関連するその他の機能については、別冊「応用編」をご参照ください。

デモ曲を聴く



1. ボタン⁴⁵(EDIT)を押しながら、ボタン⁴⁶(WRITE)を押します。

デモ曲の1曲目から順番に演奏していきます。



- ボタン⁴⁴(-, +)で順番に曲を切り替えることができます。

2. ボタン²⁷(START/STOP)を押します。

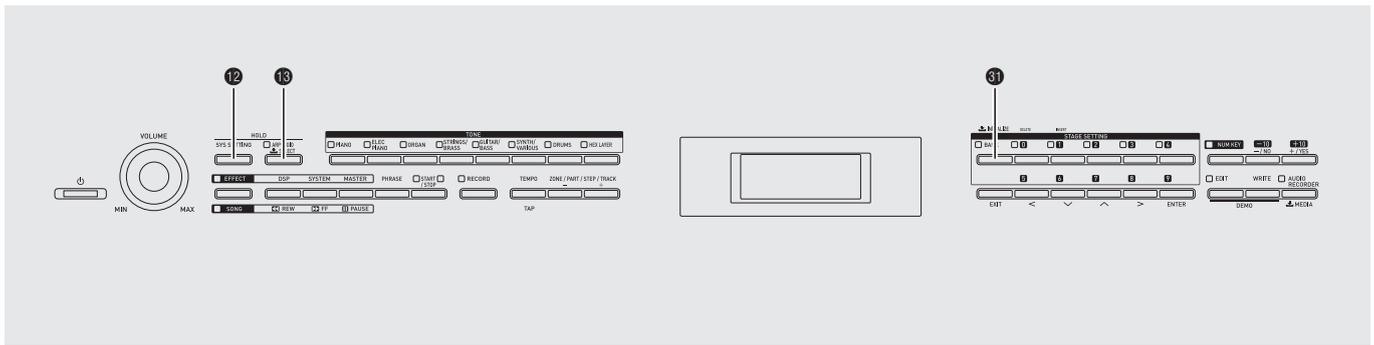
曲が停止します。

ボタン²⁷を押すまでは、全曲を繰り返して演奏し続けます。

メモ

- デモ演奏中は、上記以外の操作はできません。

アルペジオを自動的に鳴らす



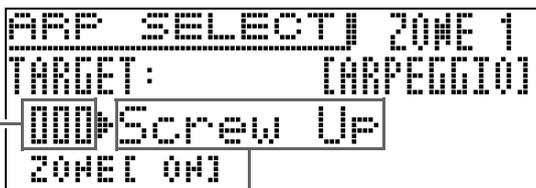
アルペジオ機能を使うと、鍵盤を押さえるだけでアルペジオ(分散和音)が自動的に再生されます。押さえている和音の構成音を再生するものや、自動的に和音の構成音以外の音も入れて再生するものなど、数多くのアルペジオタイプから選べます。

- アルペジオ機能には100タイプのプリセット(アルペジオ番号000~099)があります。プリセットを編集して、ユーザーセットを100タイプ(アルペジオ番号100~199)まで作ることができます。
- 鍵盤を離れた後もアルペジオを再生し続ける、ホールド(HOLD)機能があります。

アルペジオ機能を使う

1. ボタン**13**(ARPEGGIO)を押したままにし、次のようなタイプ選択画面が表示されたら離します。

ボタン**13**(ARPEGGIO)のランプが点灯します。



アルペジオ番号

アルペジオ名

2. アルペジオ番号を選びます。
 - 操作の方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。
3. アルペジオのホールドのON/OFFを選びます。
 - ホールド(HOLD)を設定したいときは、ボタン**12**(SYS SETTING)を押しながらボタン**13**(ARPEGGIO)を押してオンとオフを切り替えます。
OFF: 鍵盤を押さえている間だけアルペジオを再生します。
ON: 鍵盤を離れた後もアルペジオを再生し続けます。
 - ホールドがオンのとき、ボタン**13**(ARPEGGIO)のランプが点滅します。

4. 鍵盤を押さえると、アルペジオを自動再生します。

- ボタン**13**(ARPEGGIO)を押すごとに、アルペジオのオフとオンが切り替わります。
- ホールド中のアルペジオの再生を止めたい場合、ボタン**13**(ARPEGGIO)を押すか、ホールドの設定をオフに切り替えます。

アルペジオのタイプの選択画面で、選択中のアルペジオに合った推奨音色を、ゾーンパートの音色として選ぶ

ゾーンパートについての詳細は、別冊「応用編」をご参照ください。

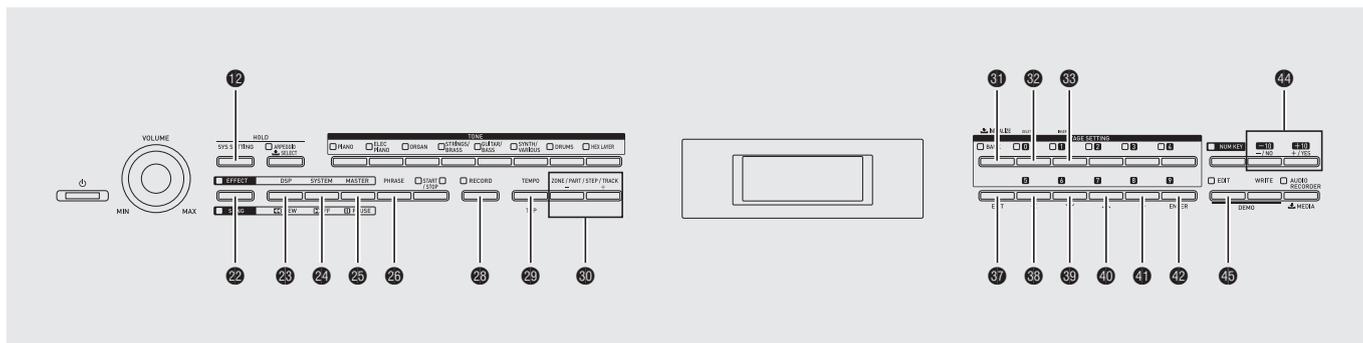
1. ボタン**13**(ARPEGGIO)を押したままにし、タイプ選択画面を表示させます。
2. ボタン**31**(BANK)を押したままにし、ボタン**31**(BANK)のランプが点滅を始めたら離します。

メモ

- ユーザーアルペジオの場合、ユーザーデータとして保存する時にゾーンパートに選ばれていた音色が推奨音色となります。

- 「アルペジオを自動的に鳴らす」に関連するその他の機能については、別冊「応用編」をご参照ください。

フレーズを再生・記録する



フレーズシーケンサーは、思い浮かんだフレーズを本機に記録し、好きな時に再生させることができます。

- 新規のフレーズを記録したり、フレーズを重ねて記録（オーバーダビング）したものを、1000個（フレーズ番号000～999）まで保存できます。
- 鍵盤で弾いたフレーズの外に、ペダル、ホイール、ノブ、スライダの各操作も記録します。ただし、ペダル、モジュレーションホイール、ノブ、スライダに割り当てた機能によっては、記録できない場合があります。詳細は、別冊「応用編」をご参照ください。
- 再生方法は、1回だけの再生（ループオフ）か、繰り返しの再生（ループオン）のいずれかを選べます。
- ループさせながらオーバーダビングもできます。
- フレーズのデータを組み合わせて曲データを作る、ソングシーケンサー機能があります。本機では、この曲データをソングと呼びます。詳細は、20ページ「ソングを作る（ソングシーケンサー）」をご参照ください。

フレーズを新規に記録する

- フレーズあたり最大約1,600音符まで記録できます。ノブ、ホイール、スライダの操作は多くのデータ量を使います。
- オーディオレコーダー機能（21ページ）で録音している間は、フレーズの記録はできません。

1. ボタン²⁶(PHRASE)のランプが点滅するまで、ボタン²⁶(PHRASE)を何回か押します。



- 画面の“Rec Mode”がオーバーダビング(OVDB)になっている場合、ボタン⁴⁴(-, +)を使って新規(NEW)に変更します。新規フレーズの記録開始待ちの状態になります。
- 必要に応じてノートクオンタイズとエンドメジャーを設定します。

■ ノートクオンタイズ(Note Qntz)の設定

鍵盤演奏を記録したとき、演奏が正確なタイミングからずれてしまう場合があります。その場合、以下のノートクオンタイズの設定にしたがって、鍵盤演奏タイミングが自動的に補正され、鍵盤演奏が正確なタイミングで発音されるように調整されます。(ただし、鍵盤を押したタイミング以外の、「鍵盤を離す」あるいは「ホイール、ペダル、ノブ、スライダの操作」のタイミングは補正されません。)

- Off : タイミングは補正されない(演奏されたタイミングで記録される)
- ♪、♪、♪、♪、♪、♪ : 指定した音符単位で実際の演奏タイミングに一番近い位置に補正される

■ エンドメジャー(End Measure)の設定

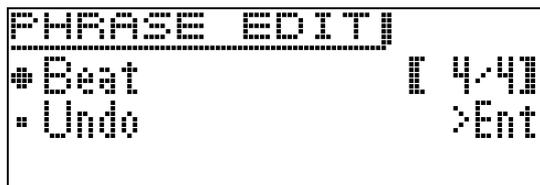
フレーズの小節数を指定します。エンドメジャーで設定した小節数(最大16)に達すると、フレーズの記録が自動的に停止します。

- Auto : 小節数を指定しないで、フレーズの記録を停止させた時点の小節数が自動的に適用される
- 1～16 : 指定した小節数に達すると、自動的に記録を終了する

- ボタン⑩ (SYS SETTING) を押すと、以下の設定をすることができます。ボタン③⑨ (✓) と④⑩ (∧) を使って設定項目を選び、ボタン④④ (−、+) を押して各項目の値を変更します。

メニュー	内容	設定範囲
Guide Beat	ガイド音 (Guide Beat)。フレーズの記録中や記録待機中にカウント音を鳴らすかどうかを設定する。	Off、On
Precount	プレカウント (Precount)。ボタン操作でフレーズの記録を開始する前に挿入するカウントの小節数を設定する。	Off、 1：1小節、 2：2小節
HighReso/ Off Velo	ハイレゾリューションベロシティ (High Reso Velocity) と、オフベロシティ (Off Velocity)。オンにすると、高い解像度の音源とオフベロシティも記録することができる。ただし、オンの場合、記録できる音符数が約半分になる。	Off、On

- ボタン④⑤ (EDIT) を押すと、ガイド音、プレカウント、エンドメジャーの設定で使う拍子 (Beat) の設定をすることができます。ボタン③⑨ (✓) と④⑩ (∧) を使って “Beat” を選び、ボタン④④ (−、+) を押して「2/4～8/4、2/8～16/8」の中から値を選びます。



2. 記録を開始します。

- 操作の方法は、11ページ「共通の操作」の「記録(録音)を開始する/停止する」をご参照ください。
- ゾーン1の演奏内容をフレーズとして記録します。ゾーンについての詳細は、別冊「応用編」をご参照ください。

3. 記録が終わったら保存してください。

- 操作の方法は、10ページ「共通の操作」の「データを保存する」をご参照ください。
- 記録に必要なメモリー容量が不足して記録できなくなった場合、“Memory Full” が画面に表示されます。容量が収まるように別のフレーズを記録し直してください。
- 保存したデータを消去する方法は、25ページをご参照ください。

■フレーズを外部機器に保存するには

- USBメモリー(28ページ)
- パソコン(32ページ)

フレーズを聴いてみる

1. ボタン②⑥ (PHRASE) を押します。

フレーズ選択画面が表示されます。



2. 聴いてみたいフレーズ番号を選びます。

- 操作の方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。

3. ボタン③⑨ (✓) でカーソルを “Loop” へ移動し、ボタン④④ (−、+) を押して、ループのオンとオフを切り替えます。

- OFF：1回だけ再生させる
- ON：繰り返し再生させる

4. フレーズを再生します。

- 操作の方法は、11ページ「共通の操作」の「再生を開始する/停止する」をご参照ください。
- フレーズのループの設定は、フレーズ毎に保存されるパラメーターです。

テンポ(速さ)を変えるには

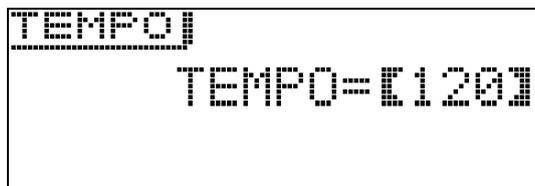
テンポ値を増減させながら調節する方法(だんだん速くしたり遅くしたりする)と、4回ボタンを連打し、その速さをテンポとして設定する方法(タップ入力)の2種類があります。

- フレーズだけでなく他の機能のテンポ調節においても下記の手順です。

■方法1:テンポ値を増減させながらテンポを調節する

1. ボタン②⑨ (TEMPO) を押します。

テンポ画面が表示されます。



2. テンポ値(1分間あたりの拍数)を調節します。

- 操作の方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。
- ボタン③⑩ (−/+) を押して、数値を変更することもできます。
- テンポ値は020～255の間で設定できます。

3. ボタン $\text{\textcircled{7}}$ (EXIT)を押します。

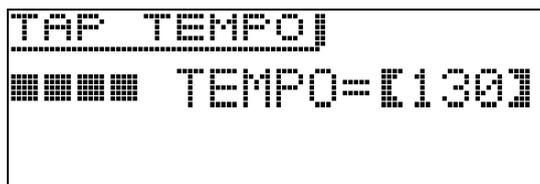
テンポ画面が閉じます。

■方法2: ボタンを連打した速さでテンポを決める (タップ入力)

1. ボタン $\text{\textcircled{2}}$ (TEMPO)を押します。

テンポ画面が表示されます。

2. 設定したい速さで、ボタン $\text{\textcircled{3}}$ (TAP)を4回押します。



- 4回押した時点で、押した速さに応じて、テンポが設定されます。

3. 必要に応じて、「方法1」の操作でテンポを微調整します。

フレーズの選択画面で、選択中のフレーズに合った推奨音色を、ゾーンパート1の音色として選ぶ

ゾーンパートについての詳細は、別冊「応用編」をご参照ください。

1. ボタン $\text{\textcircled{2}}$ (PHRASE)を押して、フレーズ選択画面“PHRASE SELECT”(18ページ)を表示させます。

2. ボタン $\text{\textcircled{1}}$ (BANK)を押したままにし、ボタン $\text{\textcircled{1}}$ (BANK)のランプが点滅を始めたら離します。データを保存する時にゾーンパート1に選ばれていた音色が推奨音色となります。

フレーズに演奏を重ねて記録する (オーバーダビング)

1. オーバーダビングするフレーズを選びます。

2. ボタン $\text{\textcircled{2}}$ (PHRASE)のランプが点滅するまで、ボタン $\text{\textcircled{2}}$ (PHRASE)を何回か押します。

- “Rec Mode”が新規(NEW)になっている場合、ボタン $\text{\textcircled{4}}$ (-,+)を使って【 】の中をオーバーダビング(OVDB)に変更します。オーバーダビングの記録待ちの状態になります。

3. 記録を開始します。

- 操作の方法は、11ページ「共通の操作」の「記録(録音)を開始する/停止する」をご参照ください。
- 元のフレーズがループ再生されます。ループ再生中に行われた演奏や操作は元のフレーズに重ねて記録されます。

■最後に記録した内容を消去する(アンドゥ)

フレーズの停止中、再生中、あるいはオーバーダビング中に、アンドゥ画面(PHRASE : UNDO)が表示されるまでボタン $\text{\textcircled{2}}$ (RECORD)を押し続けます。

- フレーズの編集画面“PHRASE SELECT”(18ページ)からアンドゥを実行することもできます。ボタン $\text{\textcircled{5}}$ (EDIT)を押してから、ボタン $\text{\textcircled{3}}$ (∨)と $\text{\textcircled{4}}$ (∧)を使って“Undo”を選び、ボタン $\text{\textcircled{2}}$ (ENTER)を押します。アンドゥ画面が表示されますので、10ページ「共通の操作」の「データを保存する」手順3以降と同じ操作でアンドゥを実行します。
- 最後の記録のアンドゥがすでに完了していて、さらにアンドゥの操作をしようとしたとき、“PHRASE : Can't UNDO”と表示され、これ以上アンドゥする記録がないことを示します。ボタン $\text{\textcircled{7}}$ (EXIT)を押すと、エラーメッセージの表示を消すことができます。

フレーズを保存する

操作の方法は、10ページ「共通の操作」の「データを保存する」をご参照ください。

- 保存先のデータ容量が不足している場合、フレーズの保存画面“Press Enter”の代わりに“not enough space”と表示されて、本機への保存ができなくなります。より大きいデータサイズを持つ他の保存先を指定し直すか、他のデータを消去して空き容量を作ってください。
- 保存したフレーズデータを消去する方法は、25ページを参照してください。
- 1000個のフレーズの合計で、最大約1MBまで保存できます。

■フレーズを外部機器に保存するには

- USBメモリー(28ページ)
- パソコン(32ページ)

ソングを作る (ソングシーケンサー)

フレーズのデータを組み合わせて曲データを作る、ソングシーケンサー機能があります。本機では、この曲データをソングと呼びます。

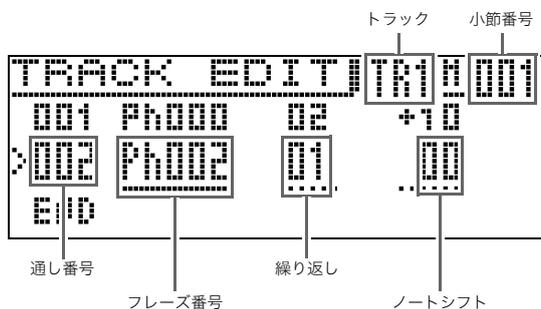
ソングを作るには

1. ボタン²²(SONG)を押して、“SONG”側のランプを点灯させます。



2. ソングの番号を選びます。
 - 操作の方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。
3. ボタン⁴⁵(EDIT)を押します。
4. ボタン³⁹(∨)と⁴⁰(∧)を使って編集項目を選び、ボタン⁴²(ENTER)を押します。
 - ソングを作るには、“TRACK EDIT”を選びます。操作の方法は、手順5をご参照ください。
 - ソングのテンポを調節するには、“Tempo”を選びます。操作の方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。
 - “Song Mixer”については、別冊「応用編」をご参照ください。

5. ソングを編集します。
 - ボタン³⁰(-/+)を使って、トラックを切り替えます。
 - フレーズ番号以降は、ボタン³⁸(<)、³⁹(∨)、⁴⁰(∧)、⁴¹(>)を使って“_”を移動させ、ボタン⁴⁴(-)、⁴³(+)を押して、値を変更します。



メニュー	内容	設定範囲
フレーズ番号	使いたいフレーズのフレーズ番号	Ph000~Ph999
繰り返し	フレーズの再生を繰り返す回数	1 ~ 99
ノートシフト	フレーズの音程をシフトさせて発音	-24 ~ +24

- 部分的にフレーズを削除したいときは、ボタン³²(DELETE)を押します。
- 部分的にフレーズを挿入したいときは、ボタン³³(INSERT)を押します。
- トラックの最大数は8です。
- 通し番号の最大数は999です。
- ソングの再生中は、ソングを編集できません。

6. 編集が終わったら、ソングを保存します。

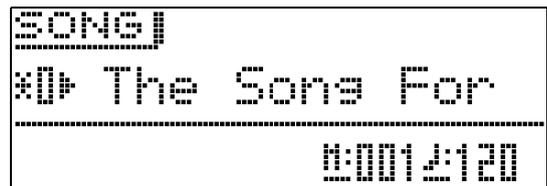
- 操作の方法は、10ページ「共通の操作」の「データを保存する」をご参照ください。
- 保存したデータを消去する方法は、25ページをご参照ください。

■ ソングを外部機器に保存するには

- USBメモリー(28ページ)
- パソコン(32ページ)

ソングを再生するには

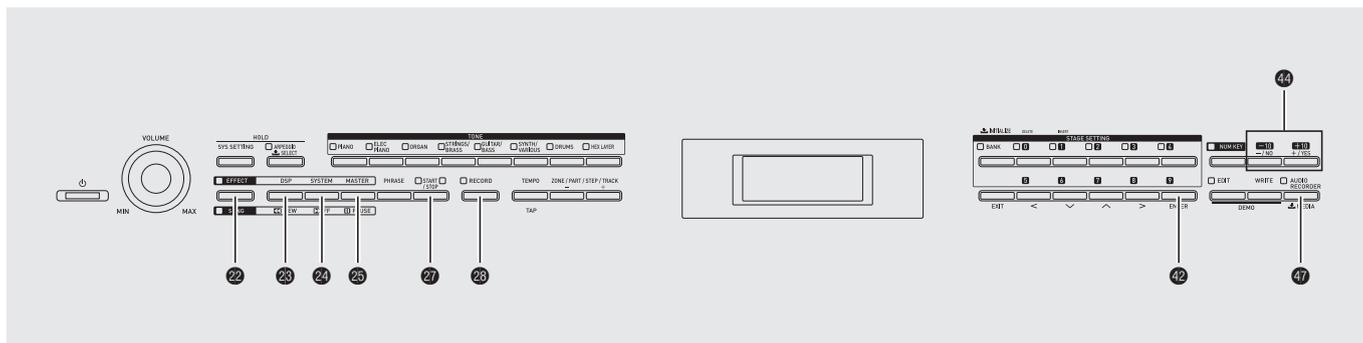
1. ボタン²²(SONG)を押して、“SONG”側のランプを点灯させます。



2. ソングの番号を選びます。
 - 操作の方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。
3. 再生します。
 - 操作の方法は、11ページ「共通の操作」の「再生を開始する/停止する」をご参照ください。
 - ボタン²³(REW)と²⁴(FF)を押して、小節単位で再生の早戻しや早送りができます。
 - ボタン²⁵(PAUSE)を押して、一時停止することができます。
 - ソングを編集し直すことができます。操作の方法は、20ページ「ソングを作るには」をご参照ください。

- 「フレーズを再生・記録する」に関連するその他の機能については、別冊「応用編」をご参照ください。

演奏を録音する(オーディオレコーダー)



本機のUSBメモリー端子へ市販のUSBメモリーを装着し、USBメモリーへオーディオデータを録音したり、USBメモリーから再生することができます(オーディオレコーダー)。

USBメモリーへの録音

本機で演奏した内容が、すべてオーディオデータ(WAVファイル※)としてUSBメモリーへ録音されます。また、ソングやフレーズシーケンサーに記録されているデータを再生しながら鍵盤演奏をすると、その内容も一緒にUSBメモリーに録音されます。

※ リニアPCM、16bit、44.1kHz、Stereo

■ 録音できる容量

- 100ファイル(No.00~99)
- 1ファイルあたり、最大録音時間約25分まで

■ 録音される内容

- 本機でのすべての演奏
- パート別に録音できません

■ 録音内容の保持

USBメモリーに録音されるオーディオデータは、録音毎に上書きはされず、自動的にファイル名を変更して保存されます。

鍵盤演奏を録音してみる

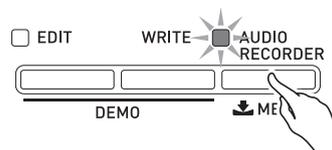
準備

- 使用するUSBメモリーを事前に本機でフォーマットしておきます。詳しくは、26ページの「USBメモリーを使用する」を参照してください。

1. USBメモリーを本機のUSBメモリー端子に装着します。

- USBメモリーを本機に装着して最初にUSBメモリーを操作するとき、本機のシステムがUSBメモリーとデータをやり取りする準備(マウント)を行うため、一時的に本機の操作が効かなくなります。マウント中は、画面に“Mounting Media”と表示されます。本機がマウントを完了し、操作が可能になるまで数十秒間かかることがあります。マウント中は、本機を操作しないでください。マウントは、本機にUSBメモリーを装着するたびに実行されます。
- 前回USBメモリーを装着したまま電源を切っていた場合、電源を入れたあと最初にUSBメモリーを操作するときにも上記のマウントが実行されます。

2. ボタン④(AUDIO RECORDER)を何回か押して、ボタンのランプを点滅させます。



3. 録音します。

- 操作の方法は、11ページ「共通の操作」の「記録(録音)を開始する/停止する」をご参照ください。
- 画面に“Audio Recording...”を表示して、USBメモリーへの録音を開始します。

メモ

- AUDIO RECORDERボタンのランプが点灯または点滅しているときは、USBメモリーをUSBメモリー端子から抜かないでください。録音が中断され、データが破損したりする場合があります。
- オーディオレコーダー機能を終了するには、ボタン④(AUDIO RECORDER)を何回か押して、AUDIO RECORDERボタンのランプを消灯させます。

フレーズやソングを再生しながら、鍵盤演奏を録音してみる

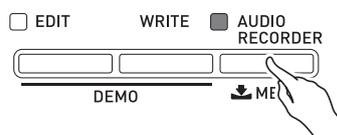
- 再生したいフレーズやソングを選びます。
 - フレーズ: 操作の方法は、18ページ「フレーズを聴いてみる」の手順1~3をご参照ください。
 - ソング: 操作の方法は、20ページ「ソングを再生するには」の手順1~2をご参照ください。
- ボタン④⑦ (AUDIO RECORDER) を何回か押して、ボタンのランプを点滅させます。
- 録音します。
 - 操作の方法は、11ページ「共通の操作」の「記録(録音)を開始する/停止する」をご参照ください。
 - フレーズやソングを再生したいタイミングで、ボタン④⑦ (START/STOP) を押します。
 - もう一度ボタン④⑦ (START/STOP) を押すと、録音を継続しながら再生を止めることができます。
- 録音を止めるには、ボタン④⑧ (RECORD) を押します。
 - RECORD ボタンのランプが消灯し、オーディオ録音を終了したことをお知らせします。フレーズやソングの再生も自動的に止まります。
 - オーディオレコーダー機能を終了するには、ボタン④⑦ (AUDIO RECORDER) を何回か押して、AUDIO RECORDER ボタンのランプを消灯させます。

メモ

- 録音中に、MIDIファイル(SMF)を再生することはできません。

USBメモリーに録音した演奏を再生する

- ボタン④⑦ (AUDIO RECORDER) を何回か押して、ボタンのランプを点灯させます。



オーディオファイルを選択する画面に切り替わります。

- ボタン④④ (-, +) を押して、曲を選びます。
 - ボタン④④ (-) を押すごとに、録音した曲がさかのぼって選ばれます。
 - ボタン④④ (+) を押すごとに、曲がファイル番号順に選ばれます。

3. 再生します。

- 操作の方法は、11ページ「共通の操作」の「再生を開始する/停止する」をご参照ください。
- ボタン④② (SONG) を押しながらボタン④③ (REW) または④④ (FF) を押すと、再生の早戻しや早送りができます。この操作は、オーディオファイルのみを再生中に可能です。
- ボタン④② (SONG) を押しながらボタン④⑤ (PAUSE) を押すと、一時停止することができます。この操作は、オーディオファイルのみを再生中に可能です。
- MIDIファイル(SMF)とオーディオファイルを同時に再生することはできません。
- オーディオレコーダー機能を終了するには、ボタン④⑦ (AUDIO RECORDER) を何回か押して、AUDIO RECORDER ボタンのランプを消灯させます。

USBメモリーに録音したオーディオファイルを消去するには

録音した内容をファイル単位で消去します。

重要!

- 以下の操作を完了すると同時に、録音した内容が消去され、元に戻すことはできません。消去しようとしている内容を一度再生して、消去してもよいことをご確認の上、以下の操作を行うことをお勧めします。

- ボタン④⑦ (AUDIO RECORDER) を何回か押して、ボタンのランプを点灯させます。
- ボタン④④ (-, +) を押して、消去したい曲を選びます。
 - ボタン④④ (-) を押すごとに、録音した曲がさかのぼって選ばれます。
 - ボタン④④ (+) を押すごとに、曲がファイル番号順に選ばれます。
 - 曲を選んだ後にボタン④⑦ (START/STOP) を押すと、選択されている曲を再生できます。もう一度ボタン④⑦ (START/STOP) を押すと、再生を停止します。
- ボタン④② (ENTER) を押します。

消去を実行してよいかを確認する画面(表示“SURE?”)になります。

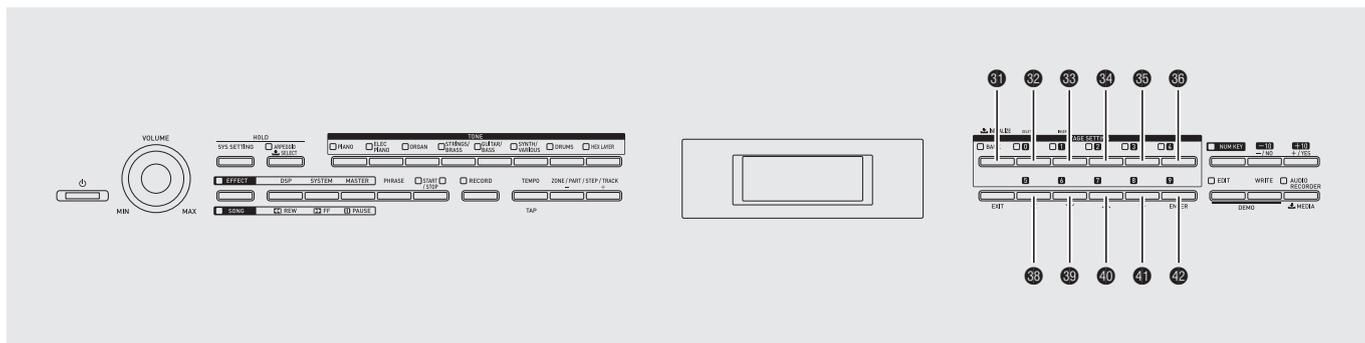
 - 消去をキャンセルする場合は、ボタン④④ (NO) を押します。
- 消去してよければ、ボタン④④ (YES) を押します。

選んだファイルが消去されます。

メモ

- 特定のファイルを消去して番号に欠番が出て、そのままとなります。新たにオーディオレコーダーで録音したときは、欠番しているファイル番号ではなく、最後のファイル番号の次の番号に保存されます。

さらに高度な演奏にチャレンジする(ステージセッティング)



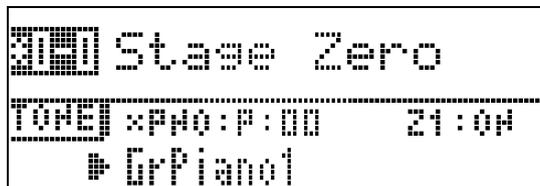
概要

本機では、鍵盤で4種類の音色まで同時に演奏することができます。また音色以外にもエフェクトやアルペジオなど、本機のさまざまな機能の設定内容をまとめて一つのデータ(ステージセッティング)として登録し、演奏中に簡単に呼び出すことができます。

- ステージセッティングを100種類(0-0 ~ 9-9)登録できます。

ステージセッティングの呼び出し

1. ボタン**31**(BANK)を押します。
ボタン**31**(BANK)のランプが点灯します。
2. バンクとステージセッティングの番号を選びます。
 - はじめに、ボタン**31**(BANK)を押してから、ボタン**32**~**36**、または**38**~**42**を押してバンク番号を指定します。
 - 次に、ボタン**32**~**36**、**38**~**42**を押して、ステージセッティングの番号を指定します。



メモ

- ステージセッティングの番号を選んだあと、内容を編集して登録することができます。編集画面への入り方は、12ページ「共通の操作」の「編集(エディット)機能を使う」をご参照ください。

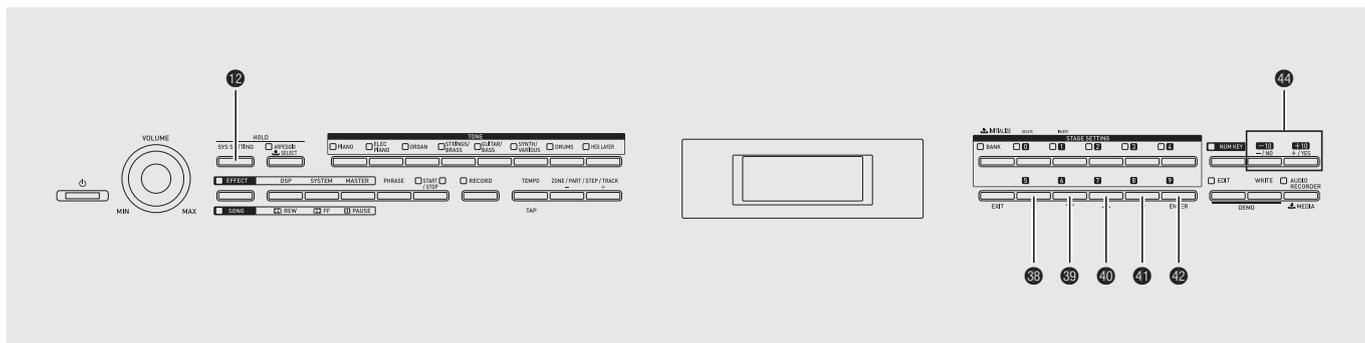
全鍵をゾーン1の音色で演奏する

ゾーンパートについての詳細は、別冊「応用編」をご参照ください。

1. ボタン**31**(BANK)を押したままにし、ボタン**31**(BANK)のランプが点滅を始めたら離します。全鍵が、ゾーン1に選んでいる音色で演奏できるように切り替わります。また、ステージセッティング設定が、その音色に最適なプリセットの設定に切り替わります。

- 編集できるパラメーターについて詳細は、別冊「応用編」をご参照ください。

本機をさらに使いこなすには

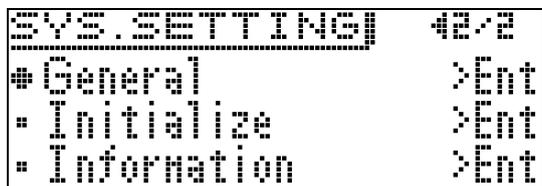


システムセッティングについて

本機全体にかかわる以下の設定を、システムセッティングのメニューで変更することができます。

- 液晶画面のコントラスト
- 電源を入れた直後のモード
- オートパワーオフ機能(6ページ)のオンオフ
- 操作のロック

1. ボタン⑫(SYS SETTING)を押します。
2. ボタン③⑨(∨)、④①(∧)を押して、“General”を選びます。



3. ボタン④②(ENTER)を押します。
4. ボタン③③(<)、③⑨(∨)、④①(∧)、④①(>)を押して、設定したい項目を選びます。
5. 設定値を変更します。
 - 操作方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。

設定項目

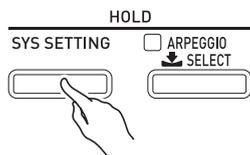
表示	内容	設定範囲
LCD Contrast	液晶画面のコントラスト(LCD Contrast)。液晶画面のコントラストを調整する。	1 - 17
Auto Resume	設定内容の自動保存(Auto Resume)。オンにすると、本機の電源を切る前の状態を保存して、次に電源を入れたときにその状態から再開する。	Off, On
Auto Power Off	オートパワーオフ機能のオンオフ(Auto Power Off)。オフにすると、オートパワーオフ機能(6ページ)を解除する。	Off, On
Panel Lock	操作のロック(Panel Lock)。オンに設定すると、ボタンがロックされて操作できなくなります(ボタン①(⏻)とロック解除の操作を除く)。誤ってボタンに触って設定が変わったりするのを防止できます。	Off, On

6. 設定が終わったら、ボタン⑫(SYS SETTING)を押して、設定画面を終了します。

データを消去する

この操作は、本機で編集や記録したデータ(音色、アルペジオ、フレーズ、ソング、ステージセッティング)を本機のメモリーから個別に消去するとき使います。

1. ボタン⑫(SYS SETTING)を押します。



2. ボタン⑳(✓)、㉑(∧)を押して、“Initialize”を選びます。

3. ボタン⑳(<)、㉒(∨)、㉑(∧)、㉓(>)を押して、消去したいデータの種類を選びます。

- 登録したステージセッティング: Init Stage Set
- ユーザー音色: Init Tone
- ユーザーアルペジオ: Clear Arpeggio
- 記録したフレーズ: Clear Phrase
- 記録したソング: Clear Song Seq
- すべてのデータ: Initialize All

4. 消去したいデータの番号を選びます。

- 操作方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。
- 手順3で“Initialize All”を選んだ場合、このデータの番号を選ぶ手順はありません。

5. ボタン㉔(ENTER)を押します。

消去を確認する画面(表示“SURE?”)になります。

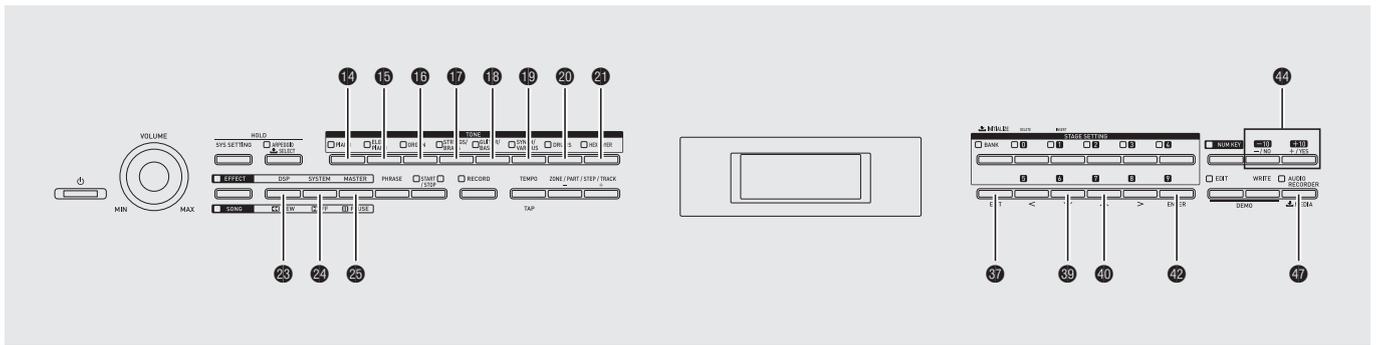
- 消去を中止したいときは、ボタン㉕(NO)またはボタン㉖(EXIT)を押します。

6. ボタン㉗(YES)を押します。

画面に“Please Wait”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。消去が終了すると、画面に“Complete”(完了)と表示されます。

- ボタン⑫(SYS SETTING)を押したときに表示されるその他の設定項目については、別冊「応用編」をご参照ください。

USB メモリーを使用する



本機では、市販のUSBメモリーを使用して以下のことができます。

- USBメモリーをフォーマットする
- USBメモリーへデータを保存する
 - 本機で編集したステージセッティング、音色、アルペジオ、フレーズシーケンサーの各データを、USBメモリーに保存する。
 - 本機のソングシーケンサーで記録した曲データを、MIDIファイル(SMFフォーマット0)にして、USBメモリーに保存する。
 - 鍵盤演奏を直接、USBメモリーに録音する。
詳しくは、21ページの「USBメモリーへの録音」を参照してください。
- USBメモリーのデータを本機へ読み込む
- USBメモリーのデータを消去する
- USBメモリーの曲データを簡単に再生する

■ 保存や読み込みができるデータの種類と内容

データの種類	内容(拡張子)	本機でできること	
		USBメモリーに保存する	USBメモリーから読み込む
ステージセッティング (23ページ)	本機で登録したステージセッティングのデータ(ZPF)	○	○
音色 (13ページ)	本機で編集した下記音色のデータ • メロディ音色のデータ(ZTN) • ヘクスレイヤー音色のデータ(ZLT) • ドラム音色のデータ(ZDR)	○	○
アルペジオ (16ページ)	本機で編集したアルペジオのデータ(ZAR)	○	○
フレーズシーケンサー (17ページ)	本機で編集したフレーズシーケンサーのデータ(ZPH)	○	○
ソングシーケンサー (20ページ)	本機で編集したソングシーケンサーのデータ(ZSQ)	○※	○
全データ	上記の全データ(ZAL)	○	○

※ MIDIファイル(SMFフォーマット0)に変えて保存することもできます。

一般のオーディオデータ(WAVファイル)をUSBメモリーに保存するには

本機のオーディオレコーダーで録音操作をすると、USBメモリー内の「MUSICDAT」フォルダの下に「TAKE00.WAV」から「TAKE99.WAV」までファイル名を変えながら、WAVファイルが格納されていきます。USBメモリーをパソコンにつなぎ、一般のオーディオデータ(WAVファイル)のファイル名を「TAKExx.WAV」※に変更してこの「MUSICDAT」フォルダに保存すると、本機で再生できます。

※ xx=00～99

USBメモリーとUSBメモリー端子の取扱い上のご注意

重要!

- USBメモリーに付属している取扱説明書の注意事項をお守りください。
- 以下のような場所での保管や使用は避けてください。USBメモリー上のデータが壊れる場合があります。
 - 高温多湿、または腐食性のある場所
 - 強い静電気や電氣的ノイズの発生しやすい場所
- データを保存したり読み込んでいるときには、本機を操作したりUSBメモリーを取り外したりしないでください。USBメモリーのデータが壊れたり、USBメモリー端子が故障したりする場合があります。
- USBメモリー端子には、USBメモリー以外は決して入れないでください。故障の原因となります。
- 長時間使用すると、取り外したUSBメモリーが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- USBメモリー端子に、手やUSBメモリーから静電気が伝わると、本機が誤動作する場合があります。このような場合は、一度本機の電源を切ってから、再び電源を入れてください。

著作権について

個人で楽しむなどのほかは、音声/音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配布することも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

USBメモリーを本機に装着する/取り外す

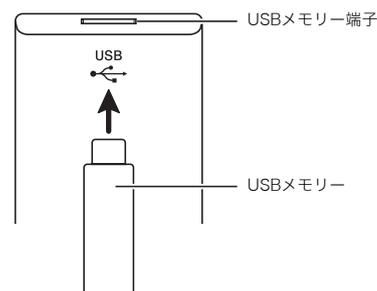
重要!

- USBメモリーを本機に装着して最初にUSBメモリーを操作するとき、本機のシステムがUSBメモリーとデータをやり取りする準備(マウント)を行うため、一時的に本機の操作が効かなくなります。マウント中は、画面に“Mounting Media”と表示されます。本機がマウントを完了し、操作が可能になるまで数十秒間かかることがあります。マウント中は、本機を操作しないでください。マウントは、本機にUSBメモリーを装着するたびに実行されます。
- 前回USBメモリーを装着したまま電源を切っていた場合、電源を入れたあと最初にUSBメモリーを操作するときにも上記のマウントが実行されます。
- USBメモリー端子には、USBメモリー以外は差し込まないでください。

■装着するとき

1. 下図のように、USBメモリーを本機のUSBメモリー端子(48)へ差し込みます。

- 確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。



■取り外すとき

1. データをやり取り中でないことを確認してから、USBメモリーを水平にしたまま抜きます。

USBメモリーをフォーマットする

重要!

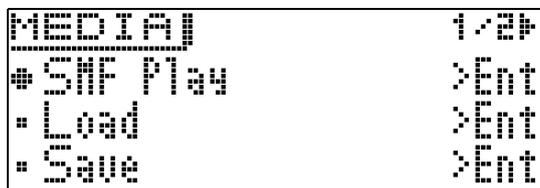
- 最初に、必ず本機でUSBメモリーをフォーマットしてください。
- フォーマットする前に、USBメモリーに大切なデータが保存されていないことをご確認ください。
- 本機でのフォーマットは、クイックフォーマットを実行します。データを完全に消去するにはパソコンなどで通常のフォーマットを行ってください。

対応USBメモリーについて

本機は、FAT32でフォーマットされたUSBメモリーに対応しています。FAT32以外でフォーマットされたUSBメモリーは、Windowsのフォーマット機能で一度、ファイルシステムをFAT32に指定してフォーマット(除クイックフォーマット)してください。

- パソコン上で複数のドライブとして認識されるUSBメモリーは、使用できないことがあります。
- パソコン上でCD-ROMとして認識されるUSBメモリーは使用できません。
- アンチウイルス機能やセキュリティー機能などの特殊機能付きUSBメモリーは使用できません。

1. フォーマットするUSBメモリーを、本機のUSBメモリー端子(43)に装着します。
2. “MEDIA”画面が表示されるまで、ボタン47(MEDIA)を押し続けます。



3. ボタン39(▼)、40(▲)を押して“Format”を選びます。
4. ボタン42(ENTER)を押します。
フォーマットを実行してよいかを確認する画面(表示“SURE?”)になります。
 - フォーマットを中止したいときは、ボタン44(NO)または47(EXIT)を押します。
5. ボタン44(YES)を押します。
画面に“Please Wait”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。フォーマットが終了すると、画面に“Complete”(完了)と表示されます。

本機のデータをUSBメモリーに保存する

本機に記録したデータを、USBメモリーに保存できます。

- 以下のデータを保存できます。
 - ステージセッティング(Stage Setting)、音色(Tone)、アルペジオ(Arpeggio)、フレーズ(Phrase)、ソングシーケンサー(Song Seq)、全データ(All Data)

1. USBメモリーを、本機のUSBメモリー端子(43)に装着します。
2. “MEDIA”画面が表示されるまで、ボタン47(MEDIA)を押し続けます。
3. ボタン39(▼)、40(▲)を押して、“Save”を選びます。
4. ボタン42(ENTER)を押します。
5. ボタン39(▼)、40(▲)を押して、保存したいデータのタイプを選びます。
 - 以下の中から、タイプを選びます。
 - ステージセッティング(Stage Setting)、音色(Tone)、アルペジオ(Arpeggio)、フレーズ(Phrase)、ソングシーケンサー(Song Seq)、全データ(All Data)
 - ソングシーケンサーをMIDIファイル(SMF)に変えて保存する場合は、“Song Seq”を選んでから、ボタン42(ENTER)を押し、次に“SMF Save”を選んでから再びボタン42(ENTER)を押します。
6. ボタン42(ENTER)を押します。
7. USBメモリーに保存したいデータを番号で選びます。
 - 操作方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。
 - 音色を保存する場合、ボタン14～21(音色グループ)を押して、保存するファイルの種類を選ぶことができます。
8. ボタン42(ENTER)を押します。
保存を実行してよいかを確認する画面(表示“SURE?”)になります。
 - 保存を中止したいときは、ボタン44(NO)または47(EXIT)を押します。
9. ボタン44(YES)を押します。
画面に“Please Wait”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。保存が終了すると、画面に“Complete”(完了)と表示されます。
 - USBメモリーに同じ名前のファイルがある場合は、上書きしてよいかを確認する画面(表示“Replace?”)になります。上書きして保存するときはボタン44(YES)を、キャンセルするときは(NO)を押してください。

■ USBメモリー内のデータ(ファイル)の保存場所について

以上の操作により本機のデータが、USBメモリー内の「MUSICDAT」フォルダの中にファイルとして保存されます。

- 上記のフォルダは、本機でUSBメモリーをフォーマットしたとき(28ページ)に自動的に作られます。
- 上記のフォルダ以外の場所に保存されているファイルは、本機での読み込みや消去、ファイル名の変更ができなくなります。また上記のフォルダの中にさらにフォルダを作って、そこにファイルを入れた場合にも、読み込みや消去ができなくなりますのでご注意ください。

USBメモリーから本機へデータを読み込む

USBメモリーに保存してあるデータを、本機に読み込みます。

1. USBメモリーを、本機のUSBメモリー端子(46)に装着します。
2. “MEDIA”画面が表示されるまで、ボタン47(MEDIA)を押し続けます。
3. ボタン39(▼)、40(▲)を押して、“Load”を選びます。
4. ボタン42(ENTER)を押します。
5. ボタン39(▼)、40(▲)を押して、読み込みたいデータのタイプを選びます。
 - 以下のデータを読み込みできます。
 - ステージセッティング(Stage Setting)、音色(Tone)、アルペジオ(Arpeggio)、フレーズ(Phrase)、ソングシーケンサー(Song Seq)、全データ(All Data)
6. ボタン42(ENTER)を押します。
7. USBメモリーから本機に読み込みたいデータを番号で選びます。
 - 操作方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。
 - 音色を読み込む場合、ボタン14~21(音色グループ)を押して、読み込むファイルの種類を選ぶことができます。
 - ボタン14(PIANO)~ボタン19(SYNTH/VARIOUS): メロディ音色のデータ(ZTN)
 - ボタン20(DRUMS): ドラム音色のデータ(ZDR)
 - ボタン21(HEX LAYER): ヘクスレイヤー音色のデータ(ZLT)
8. ボタン42(ENTER)を押します。

読み込みを実行してよいかを確認する画面(表示“SURE?”)になります。

 - 読み込みを中止したいときは、ボタン44(NO)または47(EXIT)を押します。

9. ボタン44(YES)を押します。

画面に“Please Wait”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。読み込みが終了すると、画面に“Complete”(完了)と表示されます。

- 本機の読み込み先に同じ名前のデータがある場合は、上書きしてよいかを確認する画面(表示“Replace?”)になります。上書きして読み込むときはボタン44(YES)を、キャンセルするときは(NO)を押してください。

USBメモリーのデータを消去する

USBメモリーに保存しているデータ(ファイル)を消去します。

1. USBメモリーを、本機のUSBメモリー端子(46)に装着します。
2. “MEDIA”画面が表示されるまで、ボタン47(MEDIA)を押し続けます。
3. ボタン39(▼)、40(▲)を押して“Delete”を選びます。
4. ボタン42(ENTER)を押します。
5. 以降の操作は、29ページ「USBメモリーから本機へデータを読み込む」の手順7以降と同じです。

USBメモリーのデータのファイル名を変更する

USBメモリーに保存しているデータ(ファイル)のファイル名を変更することができます。

1. USBメモリーを、本機のUSBメモリー端子(46)に装着します。
2. “MEDIA”画面が表示されるまで、ボタン47(MEDIA)を押し続けます。
3. ボタン39(▼)、40(▲)を押して“Rename”を選びます。
4. ボタン42(ENTER)を押します。

5. 以降の操作は、29ページ「USBメモリーから本機へデータを読み込む」の手順7以降と同じです。

- 文字入力の操作方法は、10ページ「共通の操作」の「文字を入力する」をご参照ください。
- ファイル名の文字は下記の中から選べます。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y	Z	\$	&	_	'
()	-	^	{	}	@	~	`	

USBメモリーに保存したオーディオデータを再生するには

市販のUSBメモリーに保存したオーディオデータ(WAVファイル※)を本機で再生することができます。

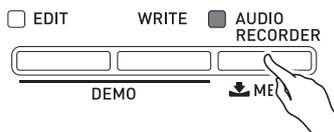
詳しくは、26ページの「USBメモリーを使用する」を参照してください。

※ リニアPCM、16bit、44.1kHz、Stereo

準備

- 本機のオーディオレコーダー機能で録音したデータが保存されているUSBメモリーを用意します。詳しくは、21ページの「USBメモリーへの録音」を参照してください。
- または、パソコンでUSBメモリー内に再生したいオーディオデータ(WAVファイル)を保存します。詳しくは、27ページの「一般のオーディオデータ(WAVファイル)をUSBメモリーに保存するには」を参照してください。
- 本機のUSBメモリー端子に、再生したいオーディオデータが保存されているUSBメモリーを差し込みます。

1. ボタン④(AUDIO RECORDER)を何回か押して、ボタンのランプを点灯させます。



オーディオファイルを選択する画面に切り替わります。

2. ボタン④(−、+)を押して、曲を選びます。

- ボタン④(+)を押すごとに、曲がファイル名順(TAKE00.WAV, TAKE01.WAV, ...)に選ばれます。ボタン④(−)を押すごとに、曲がファイル名と逆順に選ばれます。

3. 再生します。

- 操作の方法は、11ページ「共通の操作」の「再生を開始する/停止する」をご参照ください。
- オーディオレコーダー機能を終了するには、ボタン④(AUDIO RECORDER)を何回か押して、AUDIO RECORDERボタンのランプを消灯させます。

USBメモリーに保存したMIDIファイルを再生するには

市販のUSBメモリーに保存したMIDIファイル(SMF)を、本機で再生することができます。

準備

- パソコンで、USBメモリー内「MUSICDAT」フォルダに再生したいMIDIファイル(SMF)を保存します。

1. 本機のUSBメモリー端子(④)に、MIDIファイル(SMF)が保存されているUSBメモリーを差し込みます。

2. “MEDIA”画面が表示されるまで、ボタン④(MEDIA)を押し続けます。

3. ボタン④(∨)、④(∧)を押して“SMF Play”を選びます。

4. ボタン④(ENTER)を押します。

5. 再生したいMIDIファイル(SMF)を選びます。

- 操作方法は、9ページ「共通の操作」の「番号や数値を変更する」をご参照ください。

6. 再生します。

- 操作の方法は、11ページ「共通の操作」の「再生を開始する/停止する」の手順2以降をご参照ください。
- ボタン④(REW)と④(FF)を押して、小節単位で再生の早戻しや早送りができます。
- ボタン④(PAUSE)を押して、一時停止することができます。

エラーメッセージ一覧

データの転送に失敗したときなどには、以下のメッセージが液晶画面に表示されます。

- ボタン **EXIT** を押すと、エラーメッセージの表示を消すことができます。

表示	原因	解決方法
No Media	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本機のUSBメモリー端子にUSBメモリーが正しくセットされていない。 2. 操作の途中でUSBメモリーが抜き差しされた。 3. USBメモリーがプロテクトされている。 4. USBメモリーにウイルス対策ソフトが入っている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. USBメモリー端子にUSBメモリーを正しくセットする。 2. 本機の操作中にはUSBメモリーを動かさない。 3. USBメモリーのプロテクトを解除する。 4. ウィルス対策ソフトが入っていないUSBメモリーを使う。
No File	“MUSICDAT” フォルダの中に読み込みや再生ができるファイルが無い。	読み込みや再生したいファイルを “MUSICDAT” フォルダの正しい場所 (27、28ページ) へ移動する。
No Data	録音データが無いのに、USBメモリーに保存しようとした。	録音してから保存する。
Read Only	USBメモリーに入っている読み込み専用ファイルと同じ名前で、別のデータを保存しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> • 別の名前に変えてから保存する。 • USBメモリーのファイルから読み込み専用属性をはずして、上書き保存する。 • 別のUSBメモリーを使う。
Media Full	USBメモリーの空き領域が足りない。	USBメモリーに保存しているファイルを消去して、空き領域を増やす。または別のUSBメモリーを使う。
Too Many Files	<ol style="list-style-type: none"> 1. USBメモリー内のファイル数が上限になっている。 2. “MUSICDAT” フォルダ内にTAKE99.WAVファイルが存在する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. USBメモリーに保存しているファイルを消去してファイル数を減らす。 2. “MUSICDAT” フォルダ内のWAVファイルを消去する。
Not SMF01	SMFフォーマット0、1以外の曲データを再生しようとした。	本機で再生できるSMFのフォーマットは、“0” または “1”。
Size Over	<ol style="list-style-type: none"> 1. USBメモリーの曲データのサイズが大きすぎて本機で再生できない。 2. SMFを保存中に、SMFが320KBを超えた。 3. 本機へ読み込もうとしているフレーズデータのサイズが大きすぎて、本機で読み込めない。 <ul style="list-style-type: none"> • 本機に読み込めるフレーズの1ファイルあたりの最大サイズは約8KB。 • 本機に読み込める全フレーズ(最大1000ファイル)の合計サイズは約1MB。 	<ol style="list-style-type: none"> 1および2. 本機では最大で320KBの曲データまで再生できる。 3. 本機のデータを削除して、データの空き容量を増やす。
Wrong Data	<ol style="list-style-type: none"> 1. USBメモリーのデータが壊れている。 2. USBメモリーのデータが本機で操作できない内容になっている。 	—
Memory Full	ソングシーケンサーの曲をSMFに変換してUSBメモリーに保存するために必要な、本機のメモリー空き領域が不足している。	曲のデータサイズを小さくする。 例：削除してよいトラックがあれば、そのトラックのデータを消去する。
Format Error	<ol style="list-style-type: none"> 1. USBメモリーのフォーマットが本機に適合していない。 2. USBメモリーが壊れている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本機でUSBメモリーをフォーマットする。 2. 別のUSBメモリーを使う。
Media Error	USBメモリーが壊れている。	別のUSBメモリーを使う。
Filename Error	USBメモリー内のデータのファイル名を変更するとき、USBメモリー内の他のファイルと同じ名前に変更しようとした。	他のファイルに使われていないファイル名に変更する。

パソコンとの接続について

パソコンと接続する

この楽器とパソコンを接続して演奏情報(MIDIデータ)の送受信ができます。楽器演奏をパソコンの音楽ソフト(市販品)へ送って記録したり、パソコンからこの楽器へデータを送って音を鳴らすことができます。

パソコンの動作環境

MIDIデータを送受信するために必要なパソコン環境は下記のとおりです。お手持ちのパソコン環境を必ず事前にご確認ください。

● 対応OS

Windows® XP(SP2以降)※1

Windows Vista® ※2

Windows® 7 ※3

Windows® 8 ※4

Mac OS® X(10.3.9、10.4.11、10.5.X、10.6.X、10.7.X、10.8.X)

※1 Windows XP Home Edition

Windows XP Professional(32bit版)

※2 Windows Vista(32bit版)

※3 Windows 7(32bit版、64bit版)

※4 Windows 8(32bit版、64bit版)

● USB端子

重要!

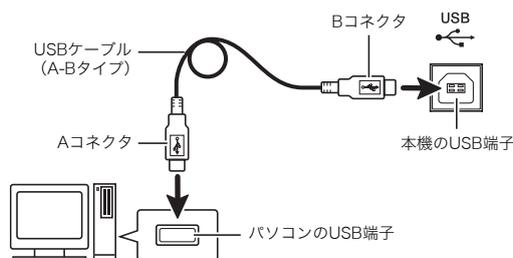
- 上記の対応OS以外のパソコンを接続すると、パソコンが故障する場合があります。絶対に接続しないでください。

接続方法

重要!

- 正しい手順で接続しないとデータの送受信ができなくなる場合があります。必ず下記の手順に従って接続してください。

1. 本機の電源を切り、パソコンを起動させておきます。
 - パソコンの音楽ソフトは起動させないでください。
2. 市販のUSBケーブルで、パソコンと本機を接続します。



3. 本機の電源を入れます。
 - 初めての接続では、データを送受信するために必要なドライバが自動でパソコンにインストールされます。
4. パソコンの音楽ソフト(市販品)を起動させます。
5. パソコンの音楽ソフトの設定で、MIDIデバイスとして下記のいずれかを選びます。
 - CASIO USB-MIDI : Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Mac OS Xの場合
 - USBオーディオデバイス : Windows XPの場合
 - MIDIデバイスの選択方法については、お使いの音楽ソフトのマニュアルをご覧ください。

重要!

- パソコンの音楽ソフトを起動させる前に、必ず本機の電源を入れておいてください。

メモ

- 1回接続に成功した後は、USBケーブルをつないだままでパソコンや本機の電源を入れなおすことができます。
- 本機はGM(General MIDI Level 1)に準拠しています。
- 本機のMIDIデータ送受信の詳しい仕様や、接続についての最新のサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

<http://casio.jp/support/emi/>

本機のデータをパソコンに保存する／本機のデータをパソコンで編集する

本機で保存したユーザー音色や、フレーズなどのデータをパソコンに転送して保存したり、そのデータをいつでも本機に転送して戻すことができます。

また、本機の音色やステージセッティングなどのデータ編集を、より作業しやすいパソコン画面から行うこともできます。これらの作業には、専用のアプリケーションソフト(データエディター)が必要です。

1. 以下のホームページから、データエディターと操作マニュアルをダウンロードして、お手持ちのパソコンに保存します。

<http://casio.jp/support/emi/>

- 本機の製品紹介のページにデータエディターのページへのリンクが貼られています。製品紹介のページが見つからない場合は、上記ホームページの検索フォームに本機の製品名を入力して検索してください。
- ダウンロードする前に、データエディターを使用するために必要なパソコン環境などについて、必ずご確認ください。
- ホームページの内容は、予告なく変更される場合があります。

2. 手順1でダウンロードした操作マニュアルに従って、データエディターをインストールします。

3. 操作マニュアルに従って、データ転送や編集を行ってください。

- 転送できるデータの種類や、編集できる内容については、操作マニュアルをお読みください。

困ったときは

現象	原因	解決方法	参照
鍵盤を押しても音が出ない。	1. VOLUME つまみが“MIN”の位置にある。 2. 本機はスピーカーを内蔵しておりませんので、何も接続しないと音が出ません。	1. VOLUME つまみを“MAX”の方に動かす。 2. オーディオ機器やアンプと接続する。あるいは、ヘッドホンに接続する。	☞ 6ページ ☞ 7ページ
ピッチがずれて聴こえる。	1. 「鍵盤の調(トランスポーズ)」の設定が“0”以外になっている。 2. 「鍵盤のピッチの微調整(チューニング)」の設定が“440.0Hz”以外になっている。 3. 音律が設定されている。 4. オクターブシフトが設定されている。	1. 設定を“0”にする。または電源を入れ直す。 2. 設定を“440.0Hz”にする。または電源を入れ直す。 3. 設定を“00”(平均律)にする。 4. 設定を“0”にする。	☞ 応用編
音の鳴り方や効果がおかしい。電源を入れ直しても変わらない。 例: 弾き方(タッチ)を変えても音に強弱がつかない。	「設定内容の自動保存」がオンになっている。	「設定内容の自動保存」をオフにして、本機の電源を入れ直す。	☞ 24ページ
コーラス/リバーブ/ディレイがかかっているように聞こえる。	1. システムエフェクトのセンドやリターンレベルが下がっている。 2. エフェクトのパラメーターに、効果の小さい設定が選択されている。	1. システムエフェクトのセンドやリターンレベルを大きな値に変更する。 2. エフェクトのパラメーターに、効果の大きい設定を選択する。	☞ 応用編
パソコンと接続したとき、データの送受信ができない。	—	1. 本機とパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか、あるいはパソコンの音楽ソフトの設定でデバイスが正しく選ばれているか確認する。 2. 本機の電源を切ってパソコンの音楽ソフトを終了させてから、本機の電源を入れてパソコンの音楽ソフトを再起動させてみる。	☞ 32ページ
USBメモリーにデータを保存できない。またはUSBメモリーからデータを読み込みできない。	—	「エラーメッセージ一覧」をご参照ください。	☞ 31ページ
同じ音色で鍵盤の位置によって音質や音量が若干異なる音色がある。	デジタルサンプリングという電子処理*によって発生する音域の境目で、故障ではありません。 ※元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げる処理。		
ボタン操作をすると、鳴っている音が一時的に途切れたり、音質が若干変わったように聴こえる。	レコーダー機能などで演奏しているときにボタン操作をすると、本機内部で音の効果が切り替わる際にこのような現象が発生することがあります。故障ではありません。		
高音域や低音域の鍵盤を弾くと、オクターブ単位で同じ音程が繰り返される。	音色によっては、発音できる音域を超えた場合などに、音程がオクターブ単位で変更されて鳴るものがあります。音色ごとの特性によるものであり、故障ではありません。		

製品仕様

型式	PX-5SWE
音源	マルチディメンショナルモーフィングAiR
鍵盤	88鍵、ピアノ鍵盤、タッチレスポンス（3段階、オフ）、ハイレゾリューションペロシティ、キーオフペロシティ、ハンマーレスポンス
同時発音数	最大256音
音色	プリセット370/ユーザー350 メロディー音色:プリセット300/ユーザー180 ヘクスレイヤー音色:プリセット50/ユーザー150 ドラム音色:プリセット20/ユーザー20
エフェクト	<ul style="list-style-type: none"> システムエフェクト:リバーブ、コーラス、ディレイ、レゾナンス マスターエフェクト:4バンドイコライザー、コンプレッサー DSP:20タイプ
デモソング数	4曲
ステージセッティング数	100
フレーズシーケンサー	<ul style="list-style-type: none"> フレーズ数:1000 ソング数:10 再生モード:1回、ループ メモリー容量:約1MB その他:オーバーダビング、ノートクオンタイズ(記録時)
オーディオレコーダー	<ul style="list-style-type: none"> USBメモリーにリアルタイム録音、再生 ※ リニアPCM、16bit、44.1kHz、Stereo WAV形式 曲数:100 1曲あたり、最大録音時間約25分まで録音可能
ミキサー	16パート+外部入力パート
その他の機能	<ul style="list-style-type: none"> トランスポーズ:±1オクターブ(-12~0~+12半音) オクターブシフト:±3オクターブ チューニング:A4=415.5~440.0~465.9Hz 音律:17種類(平均律を含む) ストレッチチューニング:8種類 アルペジオ数:プリセット:100 ユーザー:100
MIDI	16chマルチティンバー受信、GMレベル1準拠
主な操作子	ベンダーホイール、モジュレーションホイール、ノブ×4、スライダー×6
USBメモリー	SMF再生、オーディオデータの再生、ユーザーデータの保存、読み込み
入出力端子	<ul style="list-style-type: none"> ペダル端子:標準ジャック×2 電源端子:DC12V(消費電力:12V=5W) ヘッドホン端子:ステレオ標準ジャック×2 MIDI イン、アウト/スルー端子 ラインアウト [R] [L/MONO] 端子: 標準ジャック×2 出カインピーダンス 2.3kΩ 出力電圧 1.8V (RMS) MAX ラインイン [R] [L/MONO] 端子: 標準ジャック×2 入カインピーダンス 9.0kΩ 入力感度 200mV オーディオ入力端子:ステレオミニジャック 入カインピーダンス:9.0kΩ、入力感度:200mV USBメモリー端子:タイプA USB端子:タイプB
電源	2電源方式 <ul style="list-style-type: none"> 電池:単3形アルカリ乾電池8本使用 電池持続時間:約3時間(アルカリ乾電池使用時) ACアダプター:AD-A12150LW オートパワーオフ時間:約6分(乾電池使用時)、約4時間(ACアダプター使用時)、キャンセル可能

サイズ	幅132.2×奥行28.6×高さ13.5cm
質量	約11.1kg
付属品	ACアダプター(AD-A12150LW)、ペダル(SP-3)1本、取扱説明書基本編(本書)、保証書、安全上のご注意

※表記容量は、1KB=1024バイト、1MB=1024²バイト換算です。

- 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。
- 最新の仕様情報およびファームウェア情報は、下記のホームページをご覧ください。
<http://casio.jp/support/emi/>

【別売品のご案内】

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
ペダル	SP-3 SP-20
イス	CB-5 CB-7 CB-30

商品名	品番
スタンド	CS-53P CS-67P
ソフトケース	SC-700P

別売品の内容は、予告なく変更されることがあります。詳しくは店頭のカシオ電子楽器カタログをご覧ください。

<http://casio.jp/emi/catalogue>

保証・アフターサービスについて

保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間は保証書に記載されています

修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書に従って正しく操作していただき、直らないときには次の処置をしてください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理サービス窓口」が修理をさせていただきます。

- 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
- 保証書に「出張修理」と記載されているものは、お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」までご連絡ください。

● 保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」までご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

当商品は「出張修理」「持込修理」のいずれも受け付けております。修理をお急ぎの場合には、事前に最寄りの「修理に関するお問い合わせ窓口」にご相談ください。お客様のご希望に沿った修理方法をご案内させていただきます。

あらかじめご了承ください

- 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただくこと」があります。また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただくことがあります。
- 修理のとき、交換した部品を再生、再利用する場合があります。修理受付時に特段のお申し出がない限り、交換した部品は弊社にて引き取らせていただきます。
- 録音機能などのデータ記憶機能付きのモデルでは、修理のとき、故障原因の解析のため、データを確認させていただくことがあります。
- 日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内の「修理サービス窓口」にご依頼ください。

アフターサービスなどについておわかりにならないときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

© MA1403-C Printed in China



PX5S-JA-1C

© 2013 CASIO COMPUTER CO., LTD.